

平成27年度
小中高生アンケート調査結果報告書

平成 27 年 12 月

十和田市

目 次

1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象者	1
(3) 実施時期	1
(4) 調査方法	1
(5) 主な調査項目	1
(6) 回収結果	1
(7) 集計に関する留意事項	2
2 調査結果	3
(1) 回答者の属性.....	3
(2) 現在の十和田市に対する意識・意向.....	3
(3) 進路に対する意向	23
(4) 将来の十和田市に対する意向.....	26
(5) 定住意向	31
〔参考資料〕	40
(1) 平成 17 年度 小中高生アンケートの概要.....	40

1 調査の概要

(1) 調査の目的

第2次十和田市総合計画の策定にむけた、小学生、中学生、高校生のまちづくり等に対する意識・意向の把握

(2) 調査対象者

十和田市内の小学校、中学校、高等学校に通う児童、生徒のうち、小学5年生、中学2年生、高校2年生

(3) 実施時期

平成27年7月～8月

(4) 調査方法

配票調査法（調査票を配布し、後日回収）

(5) 主な調査項目

	小学校	中学校	高等学校
基本的事項	○性別	○性別	○性別 ○居住地
現在の十和田市に対する意識・意向	○自慢できるもの	○自慢できるもの	○自慢できるもの ○生活環境に対する満足度・重要度
進路に対する意向	—	—	○希望する進路 ○就きたい仕事
将来の十和田市に対する意向	○十和田市にしてほしいこと	○10年後になってほしい十和田市のすがた	○10年後になってほしい十和田市のすがた
定住意向	○定住意向	○定住意向 ○住み続けたい理由 ○住みたくない理由	○定住意向 ○住み続けたい理由 ○住みたくない理由

(6) 回収結果

	小学校	中学校	高等学校	全体
配付数（件）	524	649	692	1,865
有効回答者数（件）	523	613	662	1,798
有効回答率（%）	99.8	94.5	95.7	96.4

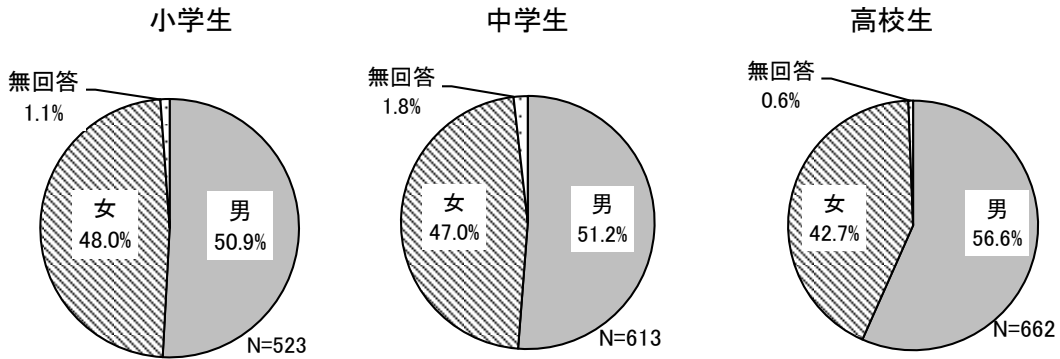
(7) 集計に関する留意事項

- ✓ 回答割合の算出においては、小数点以下第2位を四捨五入して端数処理を行っているため、各回答の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ✓ 複数回答の設問では、各回答の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ✓ 設問ごとに母数 N、複数回答の場合は回答総数 MA を記載しています。

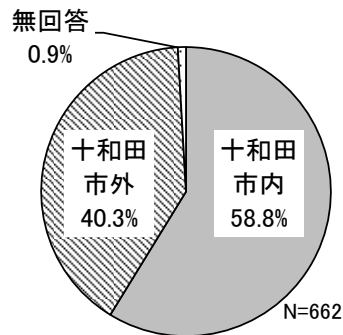
2 調査結果

(1) 回答者の属性

性別〔単一回答〕



居住地 (高校生)〔単一回答〕

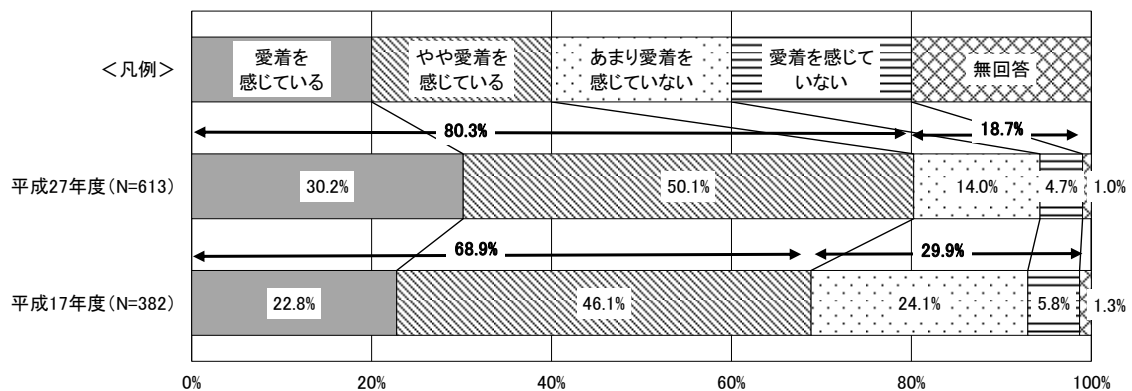


(2) 現在の十和田市に対する意識・意向

十和田市に対する愛着度〔単一回答〕

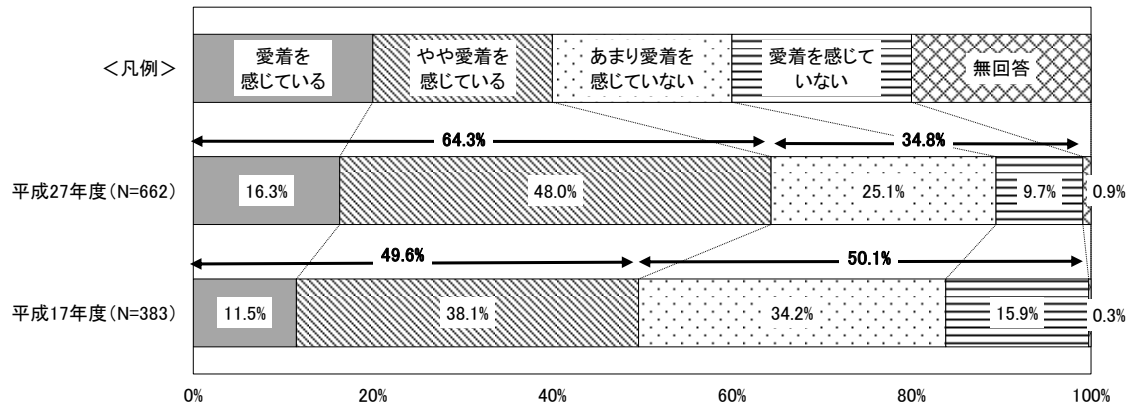
- 中学生では、「やや愛着を感じている」が 50.1% で最も高くなっています。
- 「愛着を感じている」、「やや愛着を感じている」の合計は 80.3% で、「あまり愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の合計である 18.7% を大きく上回っています。
- 「愛着を感じている」、「やや愛着を感じている」の合計は、平成 17 年度調査時と比較して約 10 ポイント高くなっています。

中学生



- 高校生では、「やや愛着を感じている」が48.0%で最も高くなっています。
- 「愛着を感じている」、「やや愛着を感じている」の合計は64.3%で、「あまり愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の合計である34.8%を上回っています。
- 「愛着を感じている」、「やや愛着を感じている」の合計は、平成17年度調査時と比較して約15ポイント高くなっています。

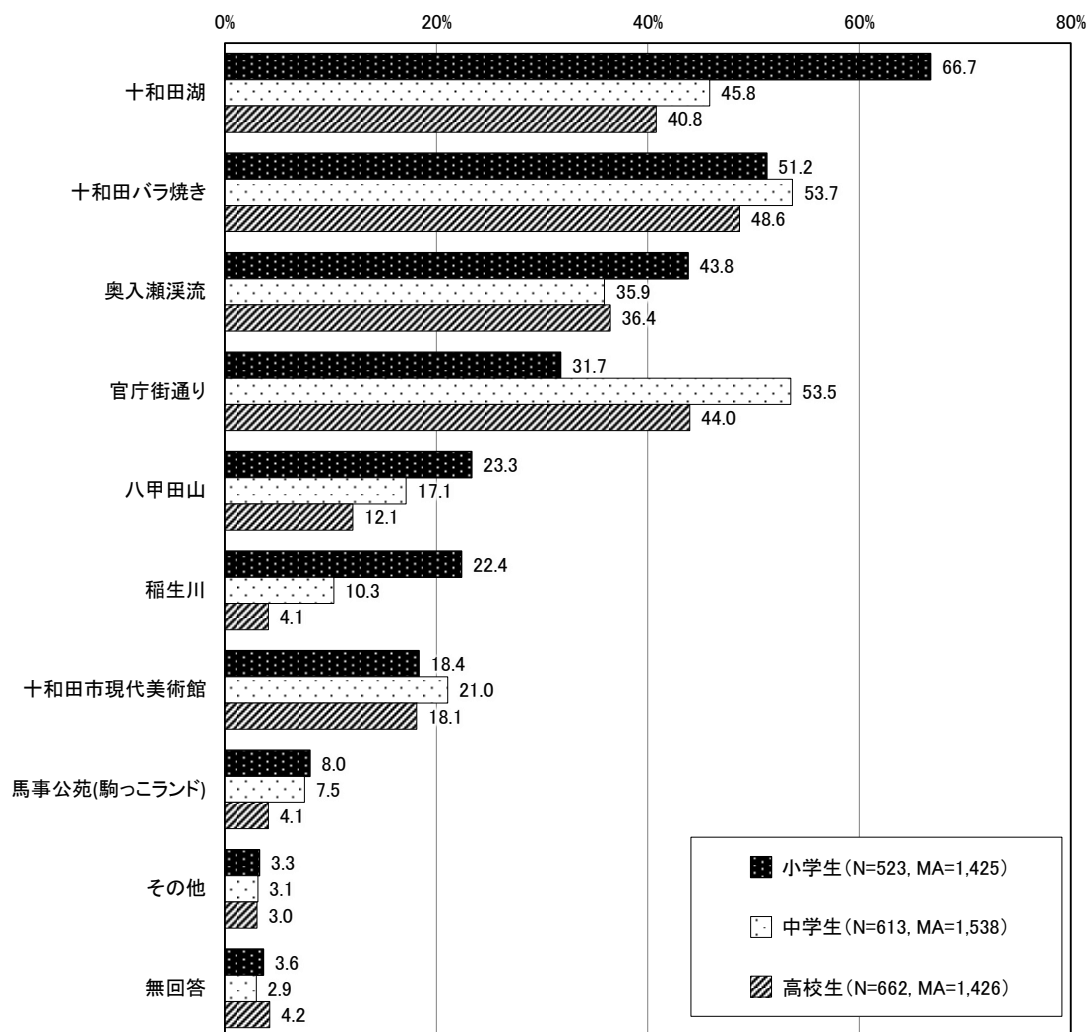
高校生



十和田市で自慢できるもの〔複数回答 3つまで〕

- 小学生では、「十和田湖」が 66.7%で最も高く、次いで「十和田バラ焼き」の 51.2%、「奥入瀬溪流」の 43.8%となっています。
- 中学生では、「十和田バラ焼き」が 53.7%で最も高く、次いで「官庁街通り」の 53.5%、「十和田湖」の 45.8%となっています。
- 高校生では、「十和田バラ焼き」が 48.6%で最も高く、次いで「官庁街通り」の 44.0%、「十和田湖」の 40.8%となっています。
- 小中高生の回答傾向を比較すると、中高生に比べて小学生は、「十和田湖」、「奥入瀬溪流」、「八甲田山」、「稻生川」といった自然環境に関するものが高くなっています。
- 一方で、「十和田バラ焼き」は、小中高生ともに全体の約5割が自慢できると回答しています。

十和田市で自慢できるもの



□ その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

【小学生】

- ・ 桜
- ・ 雪が降るから、スキーや雪遊びでたくさん遊べる
- ・ 空気おいしい
- ・ にんにくの生産量が日本一
- ・ 美味しい野菜（ねぎ・にんにく・長芋・ごぼう等）
- ・ 秋まつり
- ・ 十和田ファミリーズ（ねばっち・にんにん・ごんぼう・ねぎん）
- ・ 若葉球技場
- ・ 太素塚
- ・ 市民が優しいところ

【中学生】

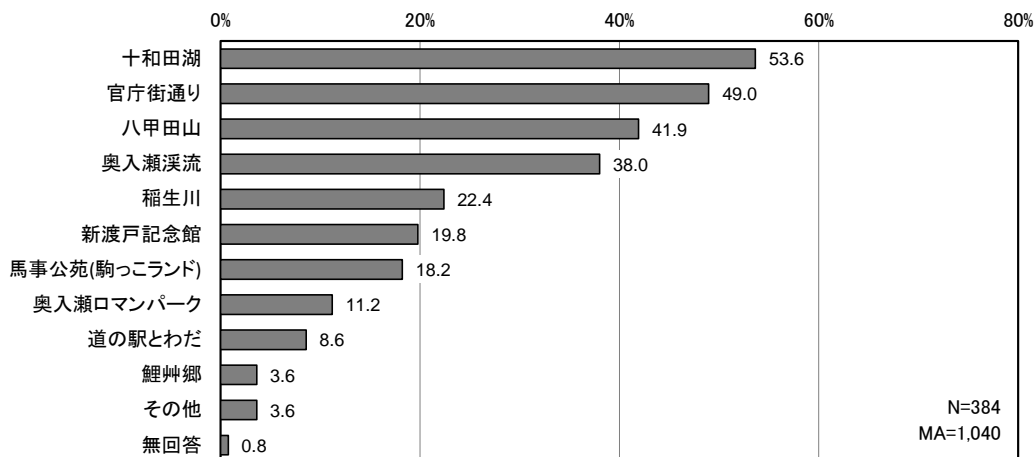
- ・ 夏まつり等行事
- ・ 秋まつりの時の屋台の数と十和田囃子競演会
- ・ 高森山サッカー場の天然芝
- ・ 1億円トイレ・若葉球技場の人工芝
- ・ 新戸渡記念館
- ・ 図書館
- ・ 三本木高等学校附属中学校
- ・ ショッピングセンター等、いろいろな店がある
- ・ 物価が安い
- ・ きれい

【高校生】

- ・ 高森山
- ・ 自然
- ・ 秋まつりの山車
- ・ 十和田市現代美術館
- ・ 高森山運動公園・若葉球技場
- ・ 1億円トイレ
- ・ 三本木農業高等学校

※平成17年度の調査結果については、平成27年度調査と選択肢が一部異なるため、参考とします。

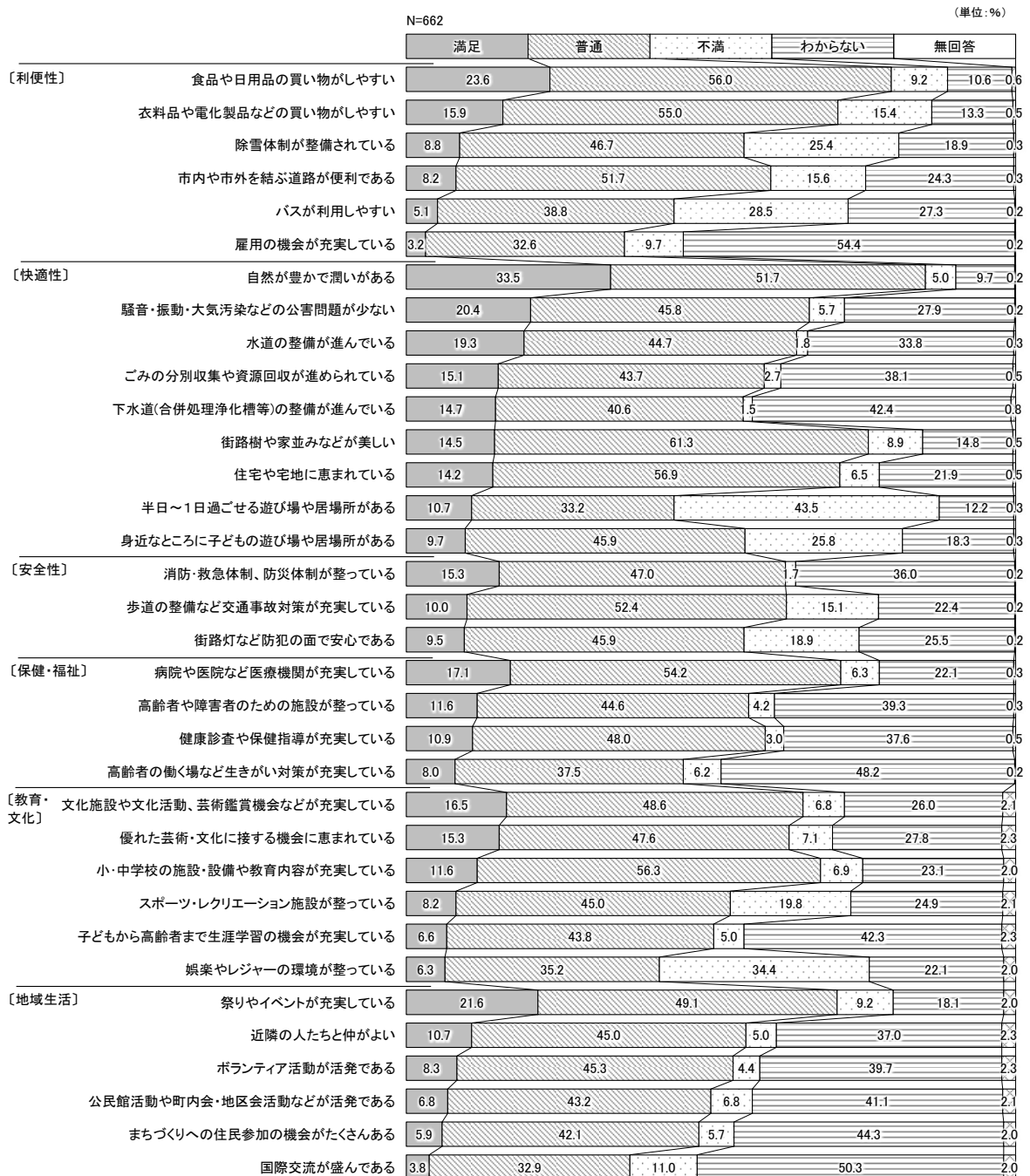
〔参考〕小学生（平成17年度）



生活環境に対する満足度・重要度（高校生）〔各項目 単一回答〕

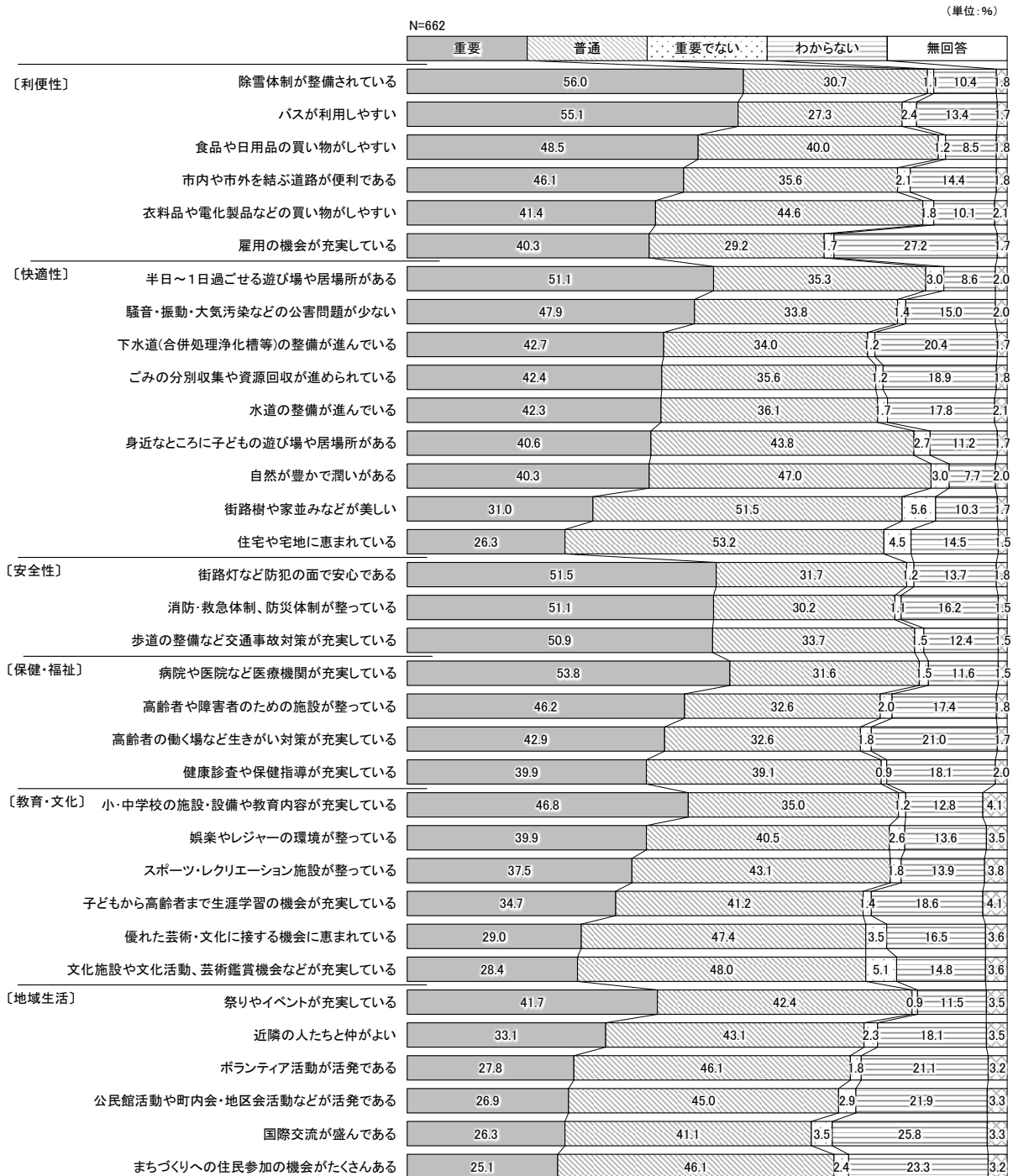
- 高校生の生活環境に対する満足度をみると、「満足」は「自然が豊かで潤いがある」が 33.5%で最も高く、次いで「食品や日用品の買い物がしやすい」が 23.6%、「祭りやイベントが充実している」が 21.6%となっています。
- 一方で、「不満」は「半日～1日過ごせる遊び場や居場所がある」が 43.5%で最も高く、次いで「娯楽やレジャーの環境が整っている」が 34.4%、「バスが利用しやすい」が 28.5%となっています。

生活環境に対する満足度



- 高校生の生活環境に対する重要度をみると、「重要」は「除雪体制が整備されている」が56.0%で最も高く、次いで「バスが利用しやすい」が55.1%、「病院や医院など医療機関が充実している」が53.8%となっています。
- また、「街路灯など防犯の面で安心である」、「消防・救急体制、防災体制が整っている」、「歩道の整備など交通事故対策が充実している」はいずれも「重要」が5割を超えており、生活環境における安全性の重要度が高いといえます。

生活環境に対する重要度



次に、生活環境に対する満足度・重要度の各選択肢に点数をつけて加重平均値を求め、満足度と重要度を数値化することで、項目間の比較を行います。

<満足度・重要度の点数表>

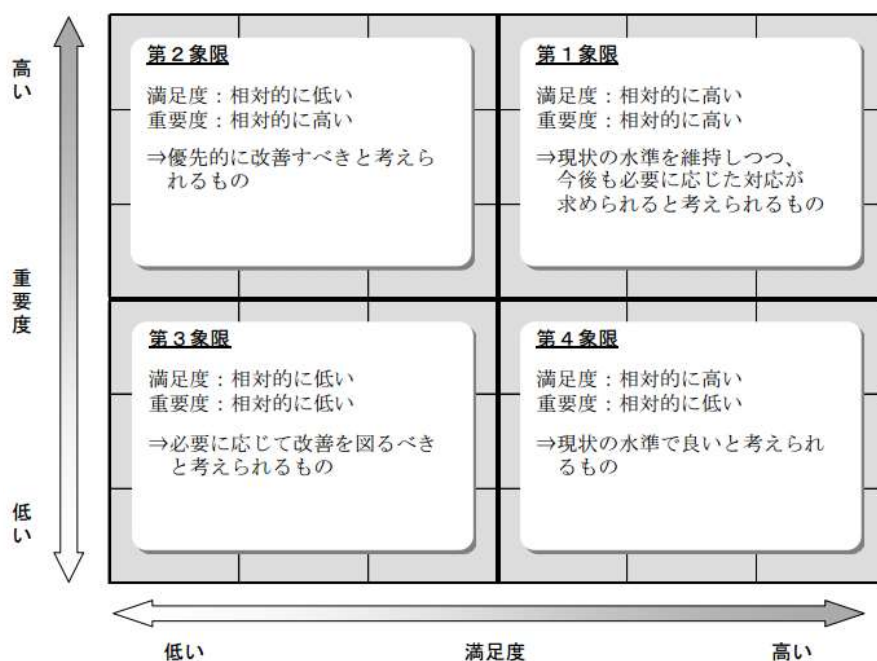
「満足度」の選択肢	点数 (点)	「重要度」の選択肢	点数 (点)
満足	3	重要	3
普通	2	普通	2
不満	1	重要でない	1
わからない	対象外	わからない	対象外
無回答		無回答	

<算出式 (加重平均) >

$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 3 + \text{「普通」} \times 2 + \text{「不満」} \times 1}{\text{「わからない」、「無回答」を除く回答者数}}$$

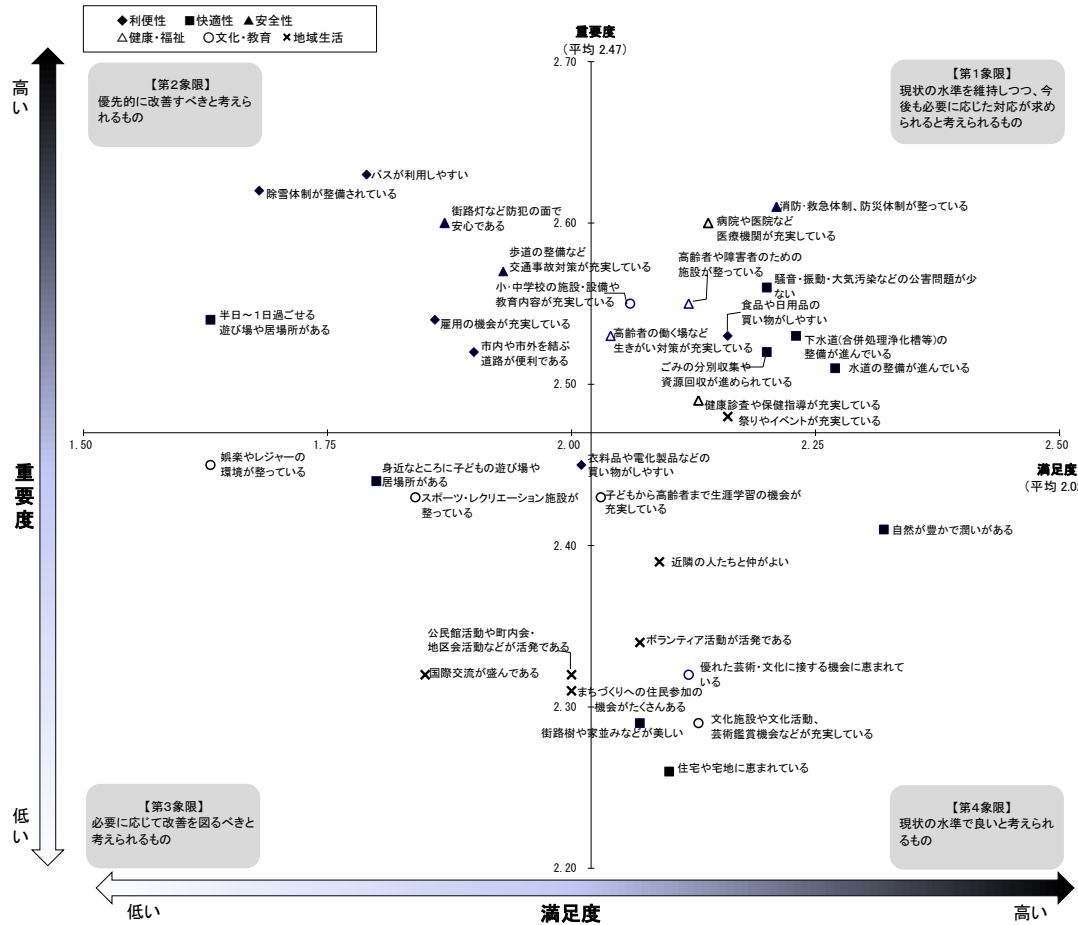
$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要」} \times 3 + \text{「普通」} \times 2 + \text{「重要でない」} \times 1}{\text{「わからない」、「無回答」を除く回答者数}}$$

加重平均値に基づく各項目の満足度を横軸、重要度を縦軸にとり、次の4象限に分類した結果を示します。



- 優先的に改善すべきと考えられる第2象限には、利便性6項目のうち「除雪体制が整備されている」、「バスが利用しやすい」、「雇用の機会が充実している」、「市内や市外を結ぶ道路が便利である」の4項目、安全性3項目のうち「街路灯などの防犯の面で安心である」、「歩道の整備など交通事故対策が充実している」の2項目が該当しており、特に利便性、安全性の分野における施策の優先度が高いと考えられます。
- 保健・福祉については、「病院や医院など医療機関が充実している」、「高齢者や障害者のための施設が整っている」、「高齢者の働く場所など生きがい対策が充実している」、「健康診査や保健指導が充実している」の4項目ともに、満足度・重要度が相対的に高いことから、今後も必要に応じた対策を講じながら、満足度の水準を維持していくことが必要と考えられます。

生活環境に対する満足度・重要度の分布

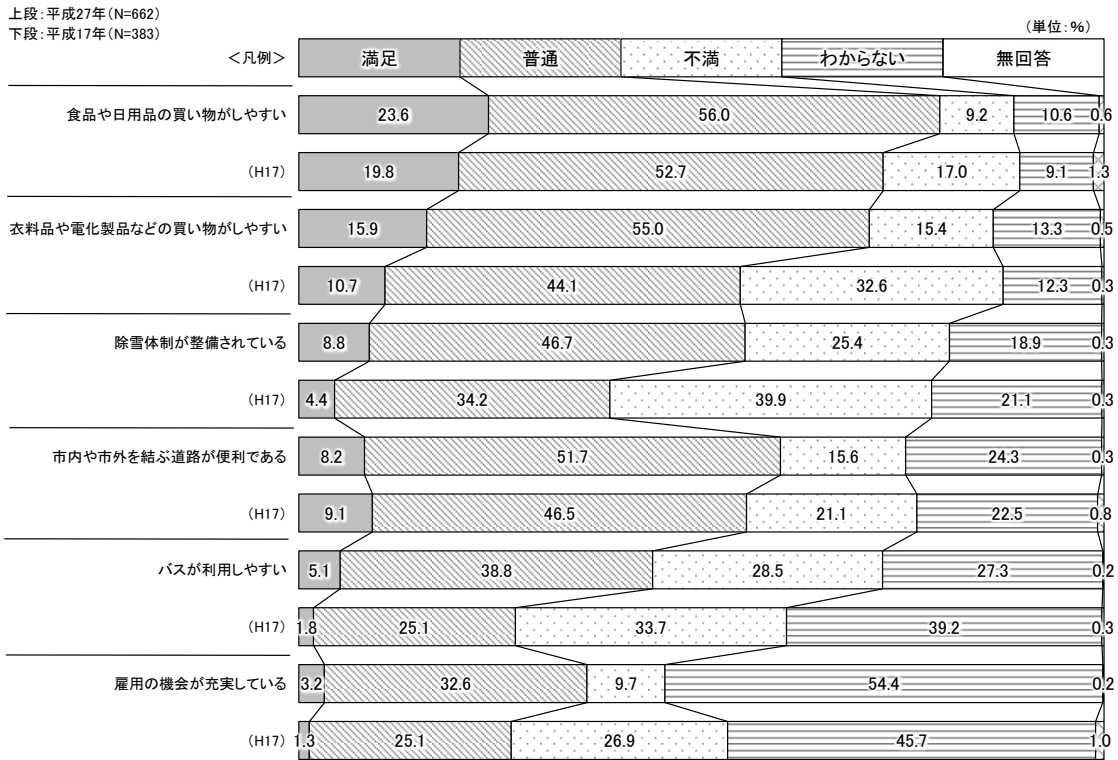


生活環境		満足度	重要度	生活環境		満足度	重要度	
利便性	バスが利用しやすい	1.68	2.62	保健・福祉	健康診査や保健指導が充実している	2.13	2.49	
	市内や市外を結ぶ道路が便利である	1.90	2.52		病院や医院など医療機関が充実している	2.14	2.60	
	食品や日用品の買い物がしやすい	2.16	2.53		高齢者や障害者のための施設が整っている	2.12	2.55	
	衣料品や電化製品などの買い物がしやすい	2.01	2.45		高齢者の働く場など生きがい対策が充実している	2.04	2.53	
	除雪体制が整備されている	1.79	2.63		小・中学校の施設・設備や教育内容が充実している	2.06	2.55	
	雇用の機会が充実している	1.86	2.54		子どもから高齢者まで生涯学習の機会が充実している	2.03	2.43	
快適性	自然が豊かで潤いがある	2.32	2.41	教育・文化	スポーツ・レクリエーション施設が整っている	1.84	2.43	
	街路樹や家並みなどが美しい	2.07	2.29		文化施設や文化活動、芸術鑑賞機会などが充実している	2.13	2.29	
	住宅や宅地に恵まれている	2.10	2.26		娯楽やレジャーの環境が整っている	1.63	2.45	
	身近なところに子どもの遊び場や居場所がある	1.80	2.44		優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている	2.12	2.32	
	半日～1日過ごせる遊び場や居場所がある	1.63	2.54		地域生活	近隣の人たちと仲がよい	2.09	2.39
	水道の整備が進んでいる	2.27	2.51			公民館活動や町内会・地区会活動などが活発である	2.00	2.32
	下水道(合併処理浄化槽等)の整備が進んでいる	2.23	2.53			まちづくりへの住民参加の機会がたくさんある	2.00	2.31
ごみの分別収集や資源回収が進められている	2.20	2.52	ボランティア活動が活発である	2.07		2.34		
安全性	騒音・振動・大気汚染などの公害問題が少ない	2.20	2.56	祭りやイベントが充実している	2.16	2.48		
	歩道の整備など交通事故対策が充実している	1.93	2.57	国際交流が盛んである	1.85	2.32		
	消防・救急体制、防災体制が整っている	2.21	2.61	最大	2.32	2.63		
	街路灯など防犯の面で安心である	1.87	2.60	最小	1.63	2.26		
				平均	2.02	2.47		

生活環境に対する満足度の平成27年度・平成17年度調査結果比較

- 利便性に関する6項目のうち「市内や市外を結ぶ道路が便利である」以外の5項目の「満足」は平成17年度調査時に比べて増加しています。
- また、「不満」は全ての項目で、平成17年度調査時に比べて減少しており、特に「衣料品や電化製品などの買い物がしやすい」、「除雪体制が整備されている」、「雇用の機会が充実している」については、「不満」が大幅に減少しています。
- しかし、「食品や日用品の買い物がしやすい」、「衣料品や電化製品などの買い物がしやすい」以外は「不満」が「満足」を大きく上回っており、引き続き利便性の向上に向けた取組みが必要と考えられます。

利便性に対する満足度

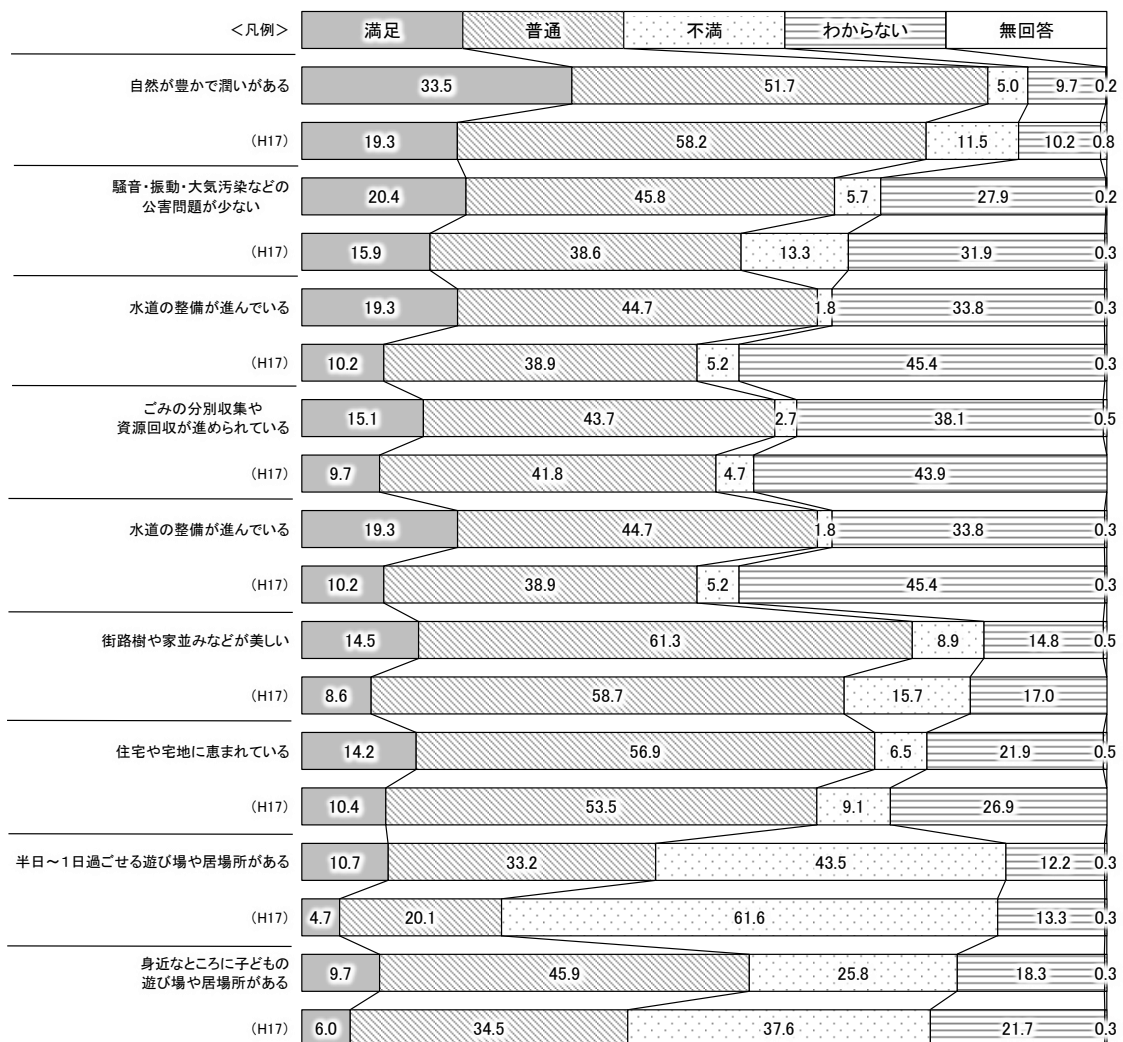


- 快適性に関する9項目について、全ての項目の「満足」が平成17年度調査時に比べて増加しています。特に、「自然が豊かで潤いがある」は約15ポイント増となっています。
- また、「不満」は全ての項目で、平成17年度調査時に比べて減少しています。特に、「半日～1日過ごせる遊び場や居場所がある」が約15ポイント、「身近なところに子どもの遊び場や居場所がある」が約10ポイントと、居場所に関する「不満」が減少していることがわかります。

快適性に対する満足度

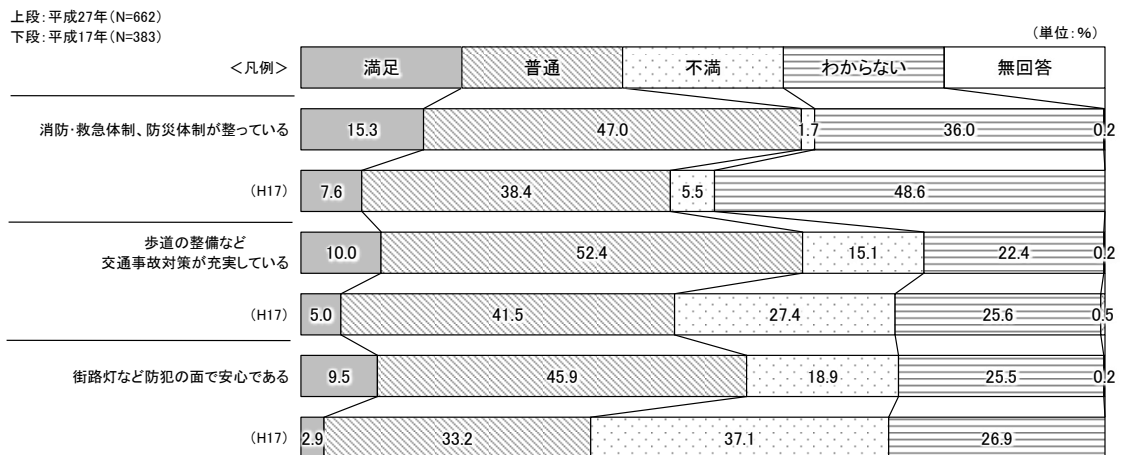
上段：平成27年(N=662)
下段：平成17年(N=383)

(単位：%)



- 安全性に関する3項目について、全ての項目の「満足」が平成17年度調査時に比べて増加しています。
- 「不満」は全ての項目で、平成17年度調査時に比べて減少しています。特に、「街路灯など防犯の面で安心である」はおおよそ半減しています。しかし、「歩道の整備など交通事故対策が充実している」、「街路灯など防犯の面で安心である」は依然として「不満」が「満足」を上回っており、安全・安心な環境づくりを継続して行う必要があると考えられます。

安全性に対する満足度

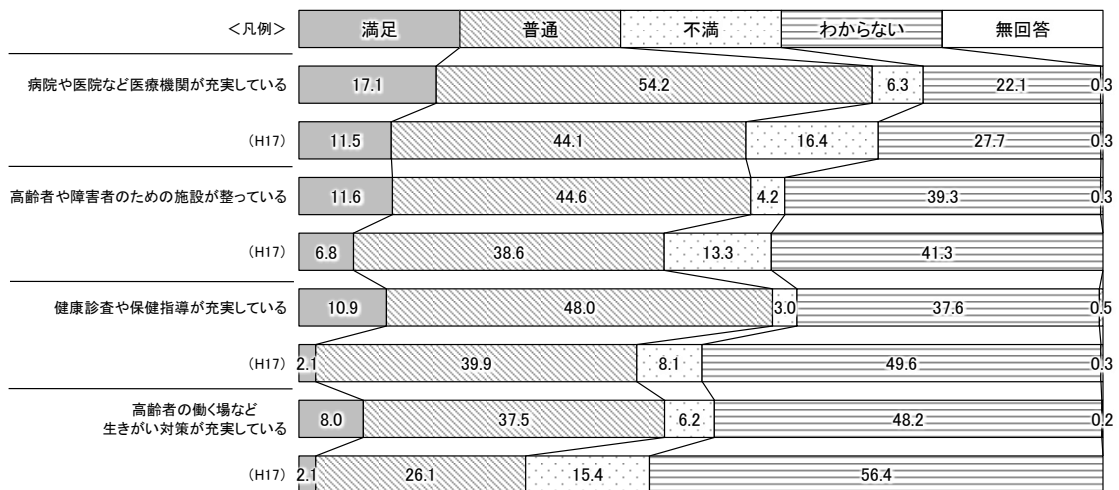


- 保健・福祉に関する4項目について、全ての項目の「満足」が平成17年度調査時に比べて増加しています。
- 「不満」は全ての項目で、平成17年度調査時に比べて減少しており、「高齢者や障害者のための施設が整っている」以外の3項目で、いずれも約10ポイント減となっています。
- 保健・福祉に関する4項目は、いずれも「不満」が10%を下回っており、他の分野に比べて不満感が小さいと考えられます。

保健・福祉に対する満足度

上段:平成27年(N=662)
下段:平成17年(N=383)

(単位:%)

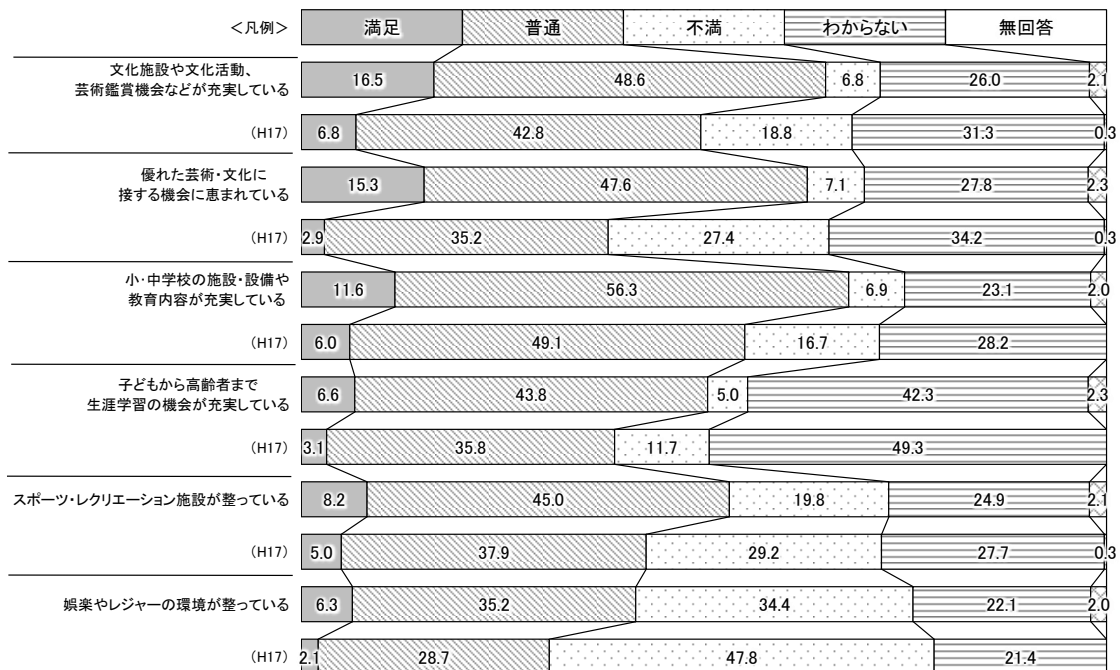


- 教育・文化に関する6項目について、全ての項目の「満足」が平成17年度調査時に比べて増加しています。特に、「文化施設や文化活動、芸術鑑賞機会などが充実している」、「優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている」は、約10ポイント増となっています。
- 「不満」は全ての項目で、平成17年度調査時に比べ減少しています。特に、「優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている」で約20ポイント減、「子どもから高齢者まで生涯学習の機会が充実している」を除くその他の項目で約10ポイント減となっています。
- 「文化施設や文化活動、芸術鑑賞機会などが充実している」、「優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている」の満足度の向上については、平成20年の十和田市現代美術館の開館や、アートによるまちづくり活動「Arts Towada」の推進が関係するものと考えられます。

教育・文化に対する満足度

上段:平成27年(N=662)
下段:平成17年(N=383)

(単位:%)

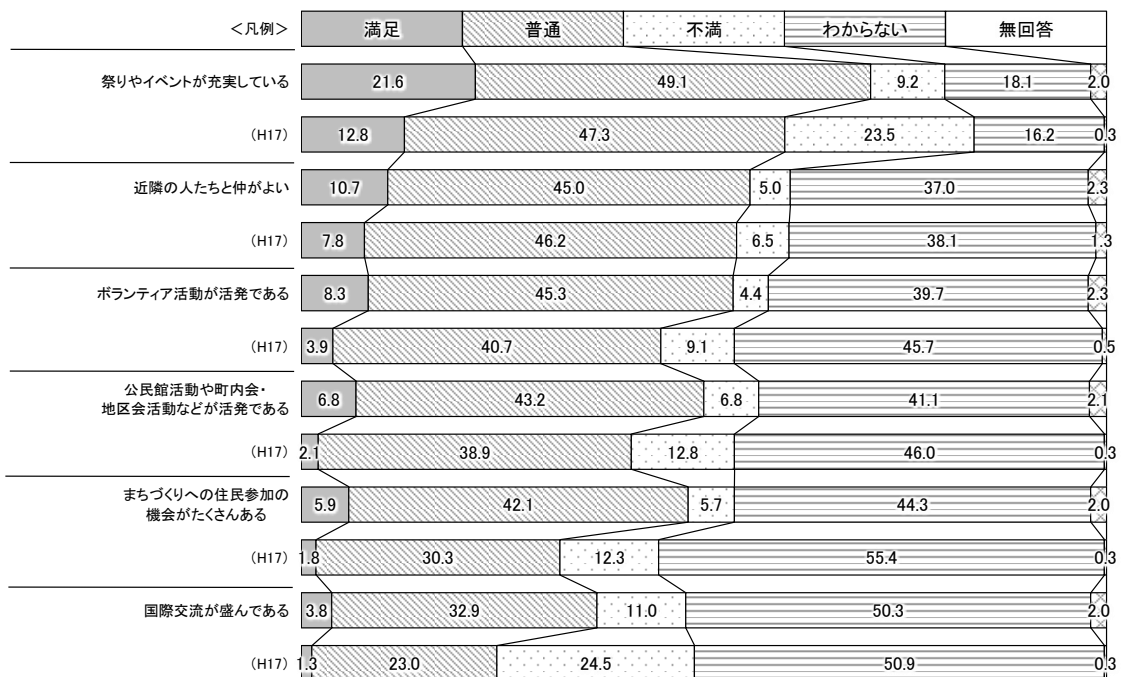


- 地域生活に関する6項目について、全ての項目の「満足」が平成17年度調査時に比べて増加しています。特に、「祭りやイベントが充実している」は約10ポイント増となっています。
- 「不満」は全ての項目で、平成17年度調査時に比べて減少しています。「祭りやイベントが充実している」では約15ポイント減となっており、地域生活の分野において、特に満足度が向上している項目と考えられます。

地域生活に対する満足度

上段：平成27年(N=662)
下段：平成17年(N=383)

(単位：%)



生活環境に対する重要度の平成27年・平成17年調査結果比較

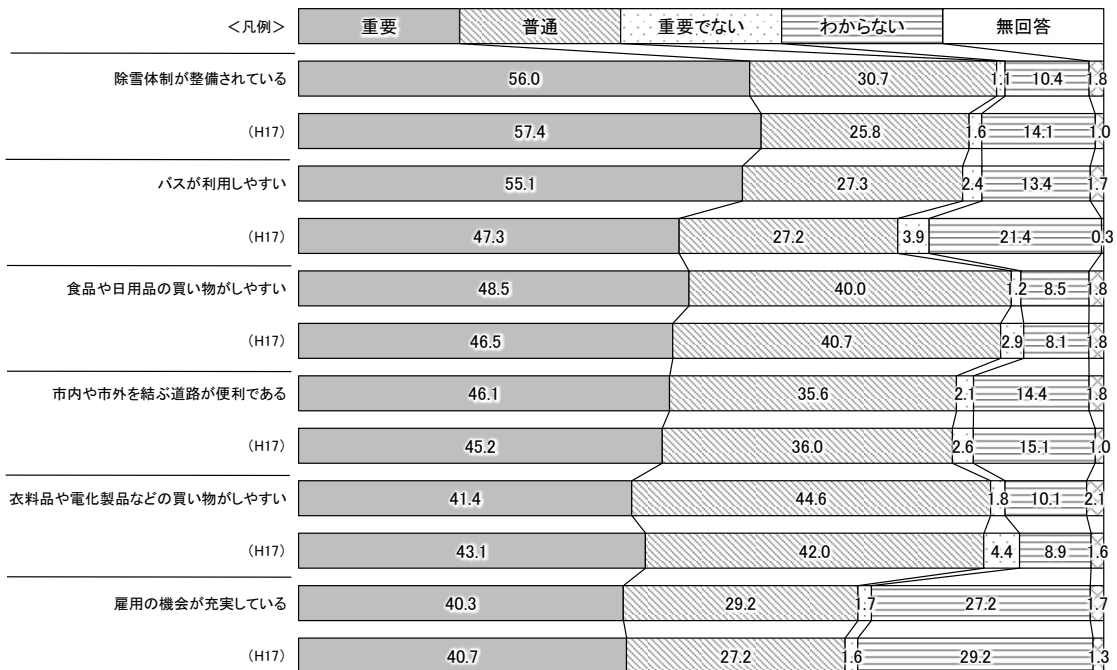
- 利便性に関する6項目について、「重要」は「バスが利用しやすい」が、平成17年度調査時に比べて約10ポイント増となっています。
- 「雇用の機会が充実している」は6項目の中で最も「重要」が低くなっていますが、これは、回答者の半数以上が進学を希望していること、また、回答者の半数以上が社会人になってからの定住意向がないことが関係しているものと考えられます(※)。

※(3)進路に対する意向、(5)定住意向に調査結果を記載しています

利便性に対する重要度

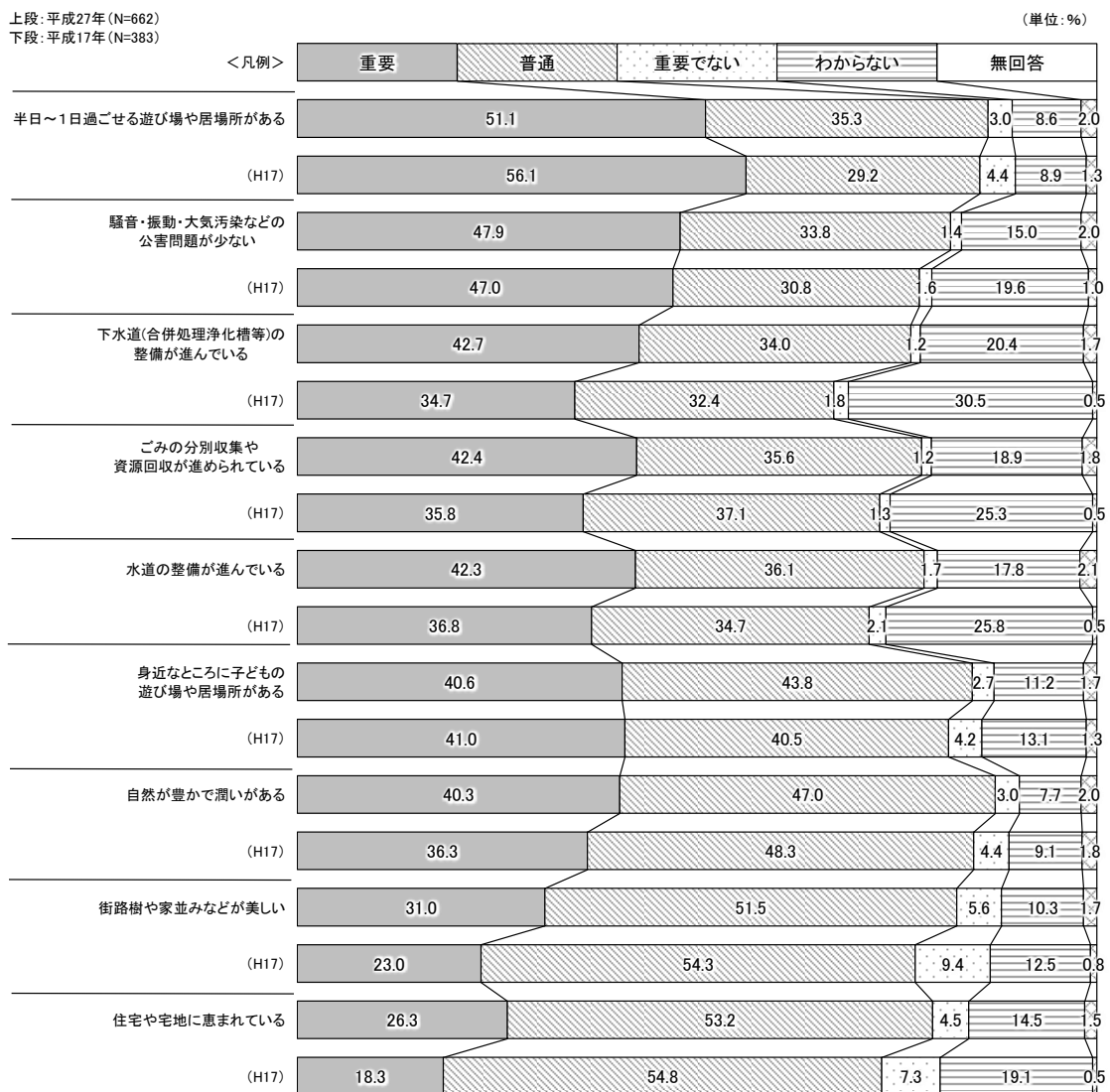
上段:平成27年(N=662)
下段:平成17年(N=383)

(単位:%)



- 快適性に関する9項目について、「重要」は「下水道（合併処理浄化槽等）の整備が進んでいる」、「街路樹や家並みなどが美しい」、「住宅や宅地に恵まれている」が、平成17年度調査時に比べて約10ポイント増となっています。
- 快適性の分野においては、居場所に関するものを除けば、自然や景観といった項目よりも、上下水道の整備やごみ処理、公害対策に関する項目について「重要」と回答している割合が高くなっています。
- 「住宅や宅地に恵まれている」は「重要」と回答している割合が低くなっていますが、これは、回答者が高校生であり、住宅や宅地の需要がほぼない年代であるためと考えられます。

快適性に対する重要度



□ 安全性に関する3項目について、「重要」、「重要でない」とともに、全ての項目で、平成17年度調査時との差は5ポイント未満とほとんどありません。

安全性に対する重要度

上段：平成27年(N=662)
下段：平成17年(N=383)

(単位：%)

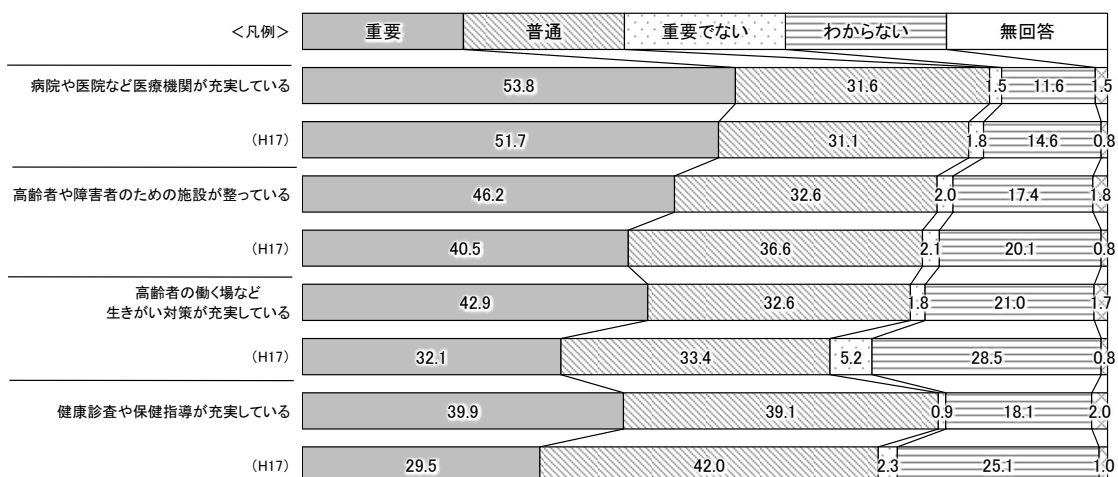


□ 保健・福祉に対する4項目について、全ての項目の「重要」が平成17年度調査時に比べて増加しています。特に、「高齢者の働く場など生きがい対策が充実している」、「健康診査や保健指導が充実している」は約10ポイント増となっています。

保健・福祉に対する重要度

上段：平成27年(N=662)
下段：平成17年(N=383)

(単位：%)

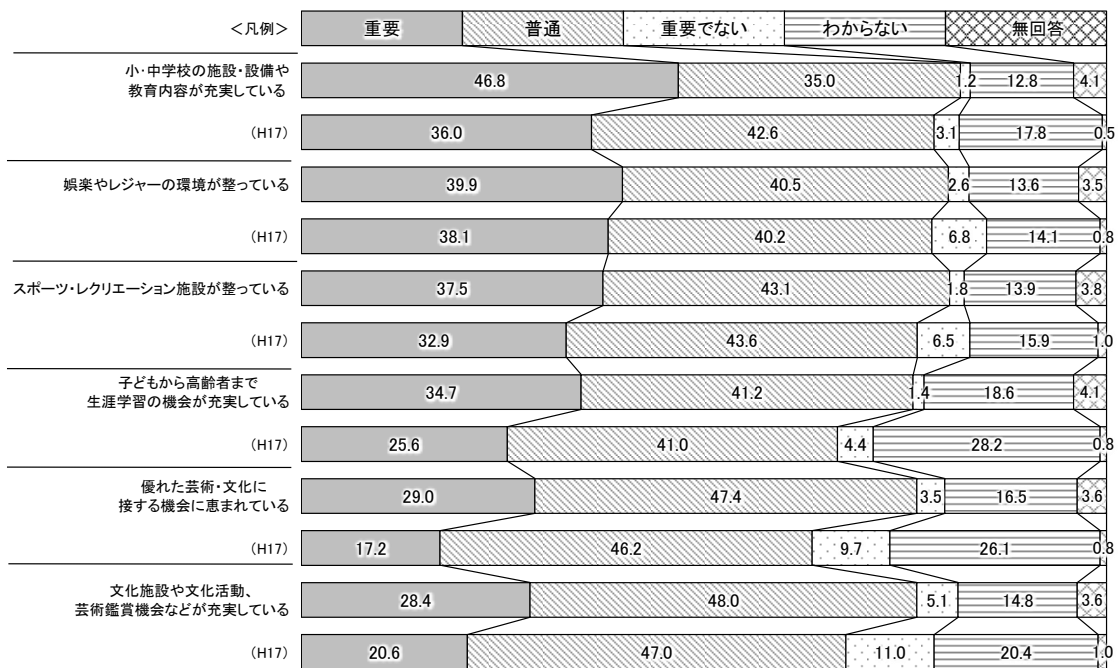


□ 教育・文化に関する6項目について、全ての項目の「重要」が平成17年度調査時に比べて増加しています。特に、「優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている」、「小・中学校の施設・設備や教育内容が充実している」、「子どもから高齢者まで生涯学習の機会が充実している」は約10ポイント増となっています。

教育・文化に対する重要度

上段:平成27年(N=662)
下段:平成17年(N=383)

(単位:%)

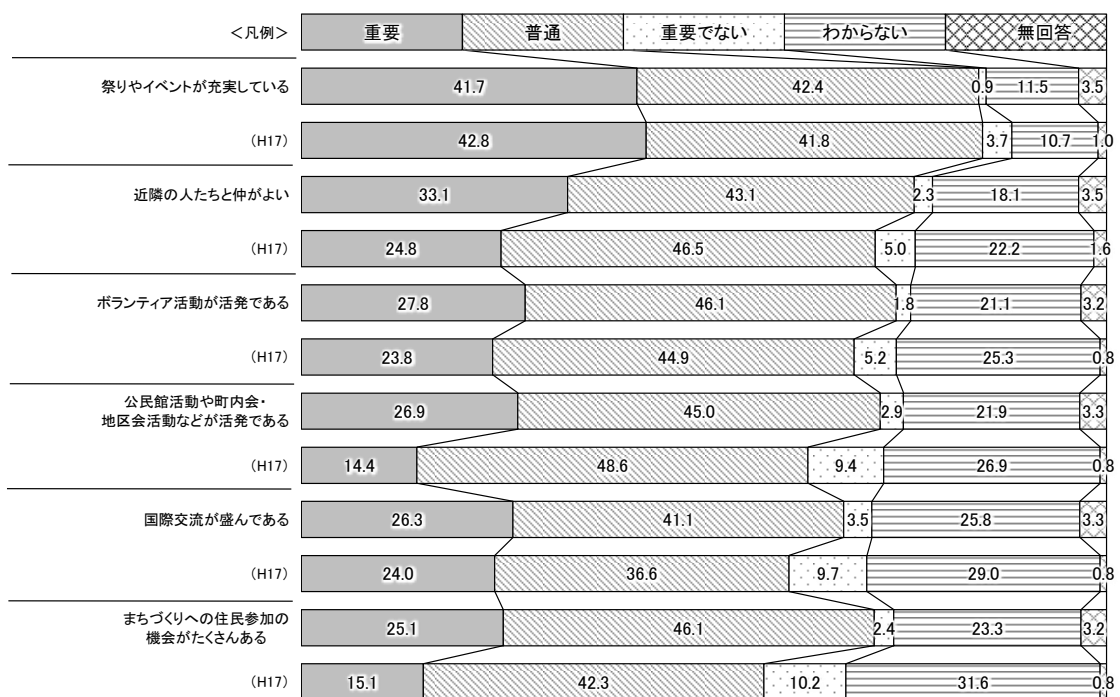


- 地域生活に関する6項目について、「重要」は「祭りやイベントが充実している」以外の5項目で、平成17年度調査時に比べて増加しています。特に、「公民館活動や町内会・地区会活動などが活発である」、「まちづくりへの住民参加の機会がたくさんある」、「近隣の人たちと仲がよい」は約10ポイント増となっています。
- 地域生活の分野では、他の項目に比べて「祭りやイベントが充実している」を「重要」と回答している割合が高くなっています。

地域生活に対する重要度

上段:平成27年(N=662)
下段:平成17年(N=383)

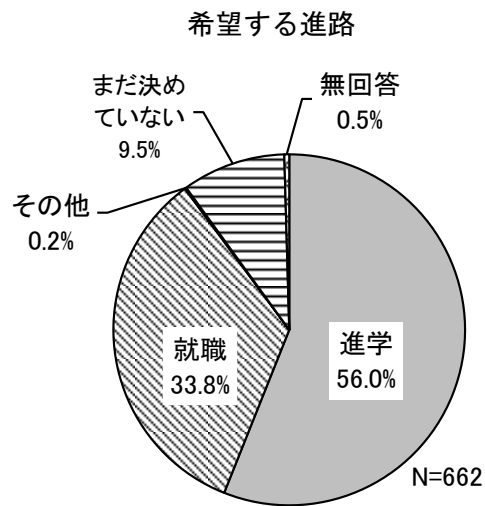
(単位:%)



(3) 進路に対する意向

希望する進路（高校生）〔単一回答〕

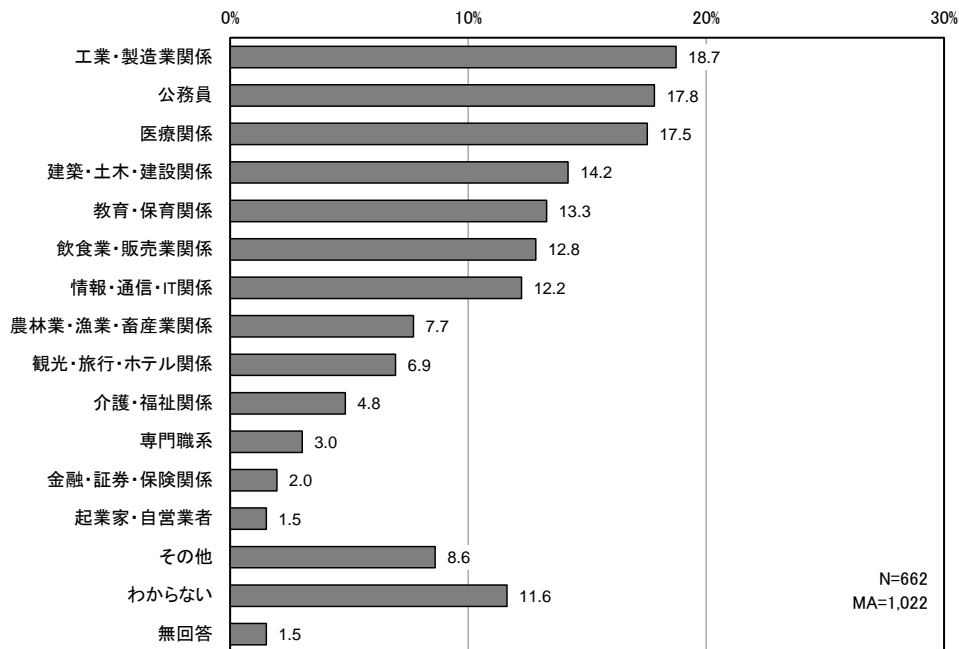
□ 高校生の希望する進路は、「進学」が56.0%で最も高く、次いで「就職」33.8%、「まだ決めていない」9.5%となっています。



将来就きたい仕事（高校生）〔複数回答 3つまで〕

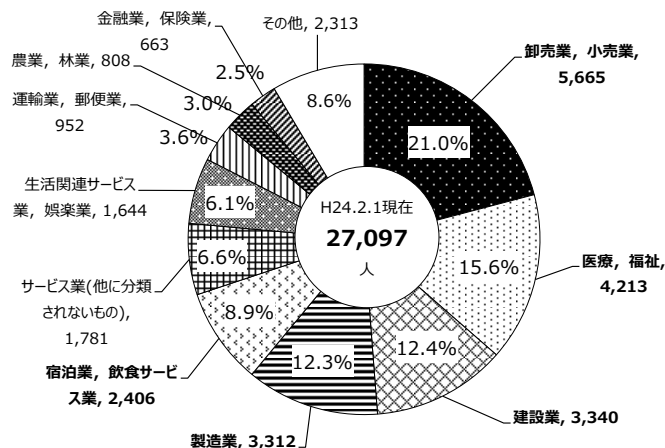
- 高校生の将来就きたい仕事は、「工業・製造業関係」が 18.7%で最も高く、次いで、「公務員」が 17.8%、「医療関係」が 17.5%、「建築・土木・建設関係」が 14.2%などとなっています。
- 「製造業」、「医療、福祉」、「建設業」は、平成 24 年度の十和田市における産業大分類別従業者数の構成比において上位となっており、市内で高校生の就業ニーズを叶えることが期待できる分野と考えられます。
- 一方で、高校生の 12.2%が将来就きたい仕事にあげている「情報・通信・IT関係」は、産業大分類別従業者数の構成比では 0.3%（図には記載なし）であり、市内で高校生の就業ニーズを叶えることが難しい分野と考えられます。

将来就きたい仕事



〔参考〕十和田市における産業大分類別の従業者の構成比

（出典）総務省「経済センサス - 活動調査」（平成 24 年）※公務員は含まれません



- その他の就きたい職業としては、クリエイティブ産業に関わる職業、専門職の中でも動物関係、研究関係、航空関係の職業等があげられています。

[クリエイティブ産業]

- ・ ゲーム・CG・Web 関係（ゲームクリエイター、グラフィックデザイナー等）
- ・ イラストレーション関係（イラストレーター、アニメーター）
- ・ 舞台技術関係
- ・ 音楽関係（コンサートスタッフ等）
- ・ 放送関係（アナウンサー、脚本家）
- ・ 出版関係（編集者、漫画家）
- ・ 服飾関係（パタンナー）
- ・ 書道家

[専門職]

- ・ 動物関係（獣医師、飼育員、トリマー、トレーナー等）
- ・ 研究関係（科学者等）
- ・ 航空関係（パイロット等）

[製造・インフラ]

- ・ 電気工事士の資格が必要になる仕事
- ・ 塗装業の仕事
- ・ 自動車整備士
- ・ 時計関係
- ・ 不動産関係

[その他]

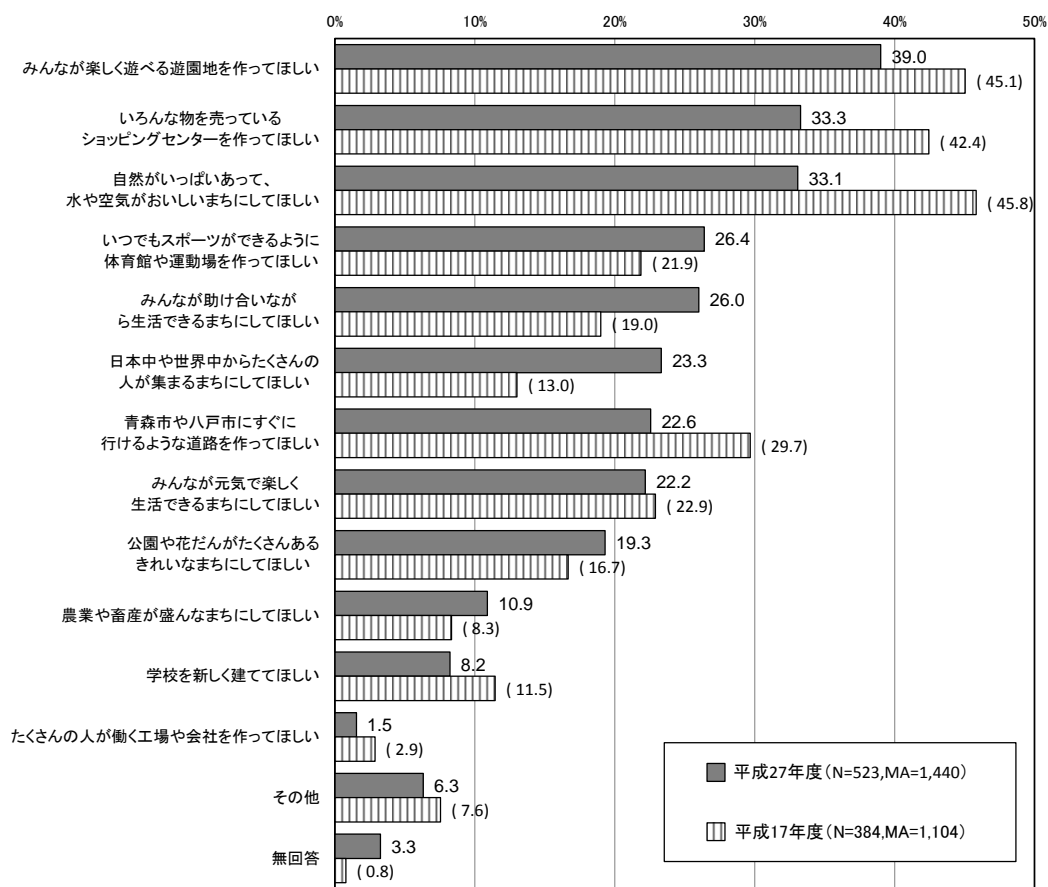
- ・ 美容・理容関係（美容師、ヘアースタylist等）
- ・ スポーツ関係
- ・ 十和田を活発にしたい
- ・ サービス業（レジ打ち等）
- ・ 人と接するのが好き
- ・ 人と関わりを持たない仕事

(4) 将来の十和田市に対する意向

十和田市にしてほしいこと (小学生) [複数回答 3つまで]

- 小学生が十和田市にしてほしいことは、「みんなが楽しく遊べる遊園地を作ってほしい」が 39.0%で最も高く、次いで、「いろいろな物を売っているショッピングセンターを作ってほしい」が 33.3%、「自然がいっぱいあって、水や空気がおいしいまちにしてほしい」が 33.1%となっています。
- 平成 17 年度調査時に比べて「日本中や世界中からたくさんの人が集まるまちにしてほしい」が約 10 ポイント増となっています。

十和田市にしてほしいこと



□ その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

[産業やにぎわい、交流に関するもの]

- ・ 果物がいっぱいできる所にしてほしい
- ・ ショッピングセンターが家の近くに建ってほしい
- ・ かわいいペンがいっぱい売っている店を造ってほしい
- ・ 東京みたいに、賑わっている町にしてほしい
- ・ 今より観光客を増やしてほしいが、美術よりも違うのが良い
- ・ 他の地域の子供と交流する児童会などをしてみたい

[生活環境や交通に関するもの]

- ・ 直ぐに行ける空港や駅を造ってほしい
- ・ 皆が安心してらせる町にしてほしい
- ・ 犯罪防止

[文化、科学、スポーツに関するもの]

- ・ 文化を大切にして、日本の誇りにできる町にしてほしい
- ・ 宇宙センターや天文台を造ってほしい
- ・ サッカーのプロがやるグラウンドを造ってほしい
- ・ 水泳ができる、大きな所を造ってほしい

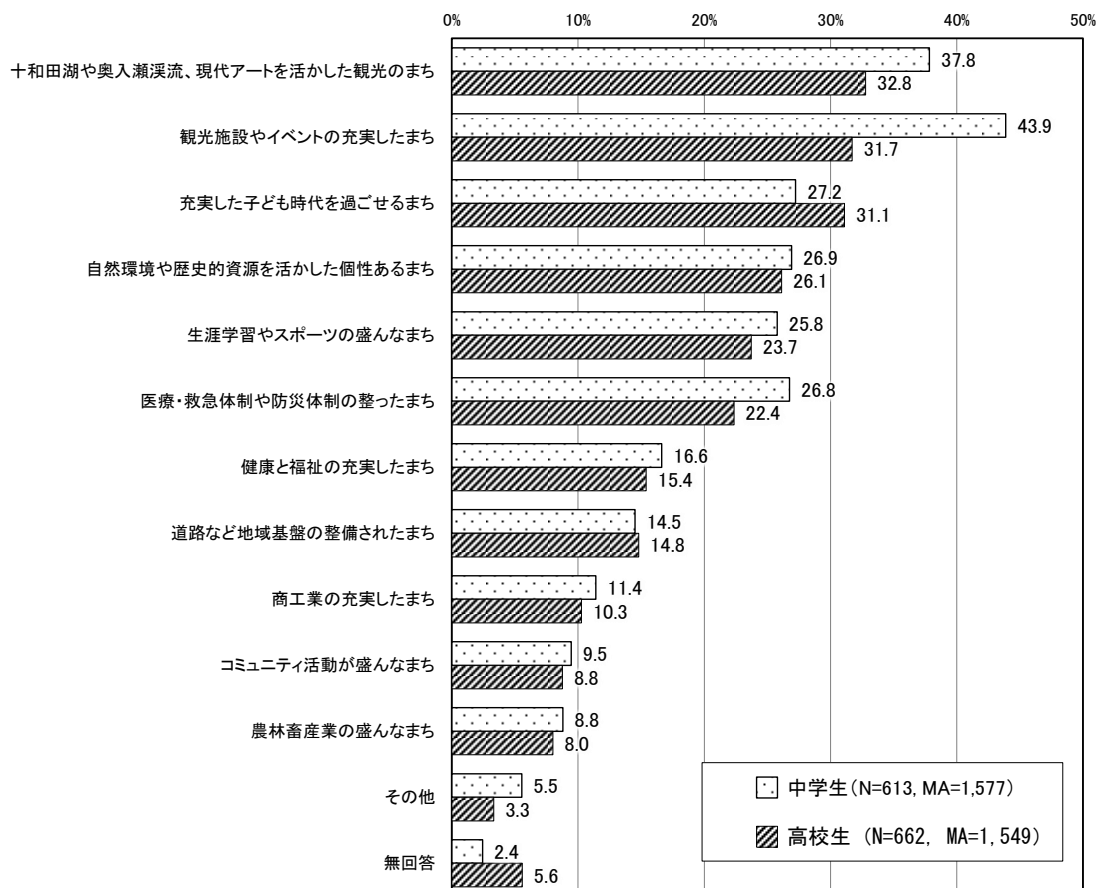
[娯楽に関するもの]

- ・ ゲームセンターを造ってほしい
- ・ アニメの専門店がほしい
- ・ 映画館を造ってほしい
- ・ 動物とふれあえる動物園を造ってほしい

10年後になってほしい十和田市のすがた〔複数回答 3つまで〕

- 10年後になってほしい十和田市のすがたについて、中学生では、「観光施設やイベントの充実したまち」が43.9%で最も高く、次いで「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」が37.8%となっているほか、「充実した子ども時代を過ごせるまち」の27.2%、「自然環境や歴史資源を活かした個性あるまち」の26.9%、「医療・救急体制や防災体制の整ったまち」の26.8%、「生涯学習やスポーツの盛んなまち」の25.8%が拮抗しています。
- 高校生では、「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」が32.8%で最も高く、次いで「観光施設やイベントの充実したまち」が31.7%、「充実した子ども時代を過ごせるまち」が31.1%、「自然環境や歴史的資源を活かした個性あるまち」が26.1%となっています。
- 中学生と高校生を比較すると、「観光施設やイベントの充実したまち」は高校生に比べ、中学生が約10ポイント高くなっています。
- また、中学生、高校生ともに上位2つが観光に関するものとなっており、今後の観光振興に対する期待の高さがうかがえます。

10年後になってほしい十和田市のすがた（中学生・高校生）



□ その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

【中学生】

[産業やにぎわい、交流に関するもの]

- ・ 商工業と農林畜産業のバランスの良い町
- ・ たくさんの食べ物が採れる町
- ・ 観光客が溢れる程来てくれる、活性化した町
- ・ いろんな種類の建物ができて、いつも賑わっている町
- ・ ショッピングセンター等を近くに設立し、便利な町にしてほしい
- ・ 若い人達が好きそうなイベントや店がある町
- ・ 物価が安い町
- ・ 田舎らしく、でも少し街っぽい。そんな感じが良いと思う
- ・ もっと都会的に

[生活環境や交通に関するもの]

- ・ インターネットが全家庭につながっている町
- ・ 交通網の充実した町
- ・ 市内電車とかが通っていれば楽だし、楽しいと思う
- ・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）ができる町
- ・ 長寿である町
- ・ もっと自然を増やして、自然を守っていく町になれば良いと思う

[文化、科学、スポーツに関するもの]

- ・ スポーツ施設や子供が生活しやすいような町。陸上競技場の設備等
- ・ たくさんの音楽に囲まれた町

[娯楽に関するもの]

- ・ テーマパーク等がある町
- ・ 遊べる所や寛げる所。ゲームセンターがたくさんあって、活気づいている町
- ・ 店や娯楽施設等の充実した町

【高校生】

[産業やにぎわい、交流に関するもの]

- ・ 雇用機会がたくさんある町
- ・ 大きなアウトレットやショッピングセンターを造る
- ・ 若者が集まりやすいまちづくり
- ・ 都会が理想

[生活環境や交通に関するもの]

- ・ 不良行為がなく、犯罪がない十和田にしたい
- ・ 土地を有効活用し、子供から高齢者までのさまざまな層の人が楽しく、安心して活動できる市
- ・ 自然の良い所で皆が暮らして、気持ち良くなる町

[文化、科学、スポーツに関するもの]

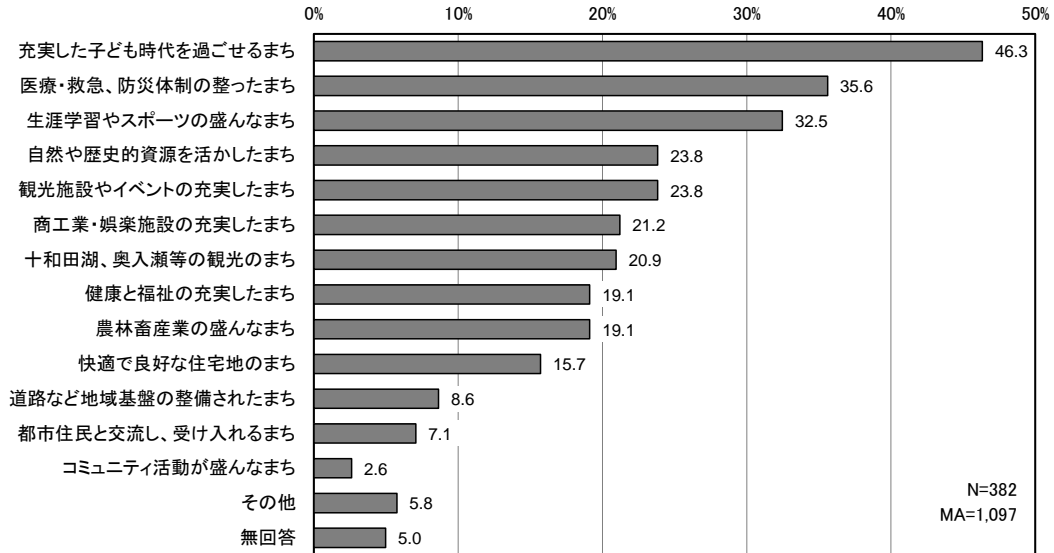
- ・ スポーツ施設利用金額の見直し

[娯楽に関するもの]

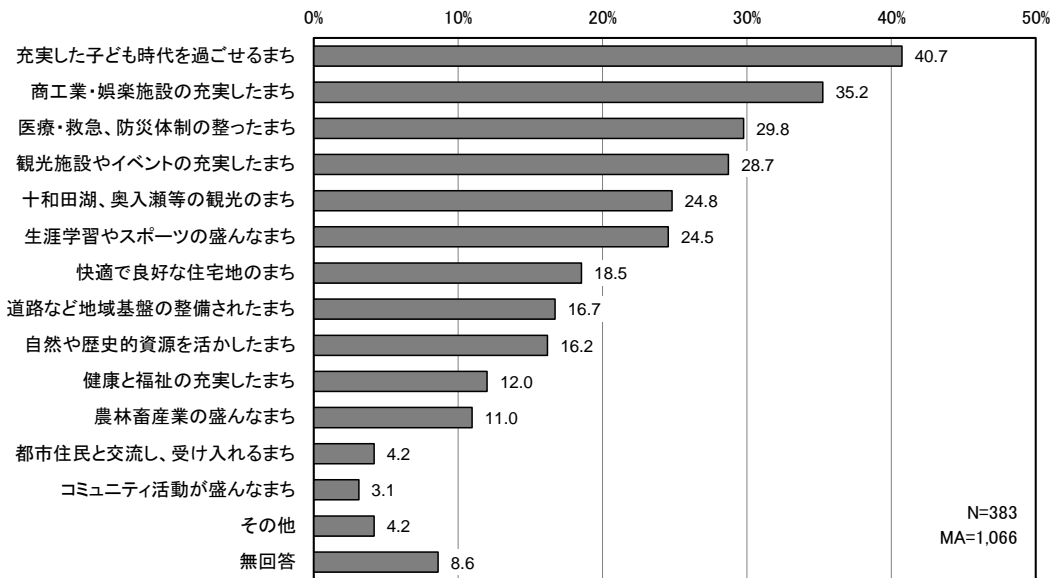
- ・ ホームセンターが多いので、若者が遊べる場所が増えてほしい
- ・ 娯楽施設を増やして

※平成 17 年度の調査結果については、平成 27 年度調査と選択肢が一部異なるため、参考とします。

〔参考〕中学生（平成 17 年度）



〔参考〕高校生（平成 17 年度）

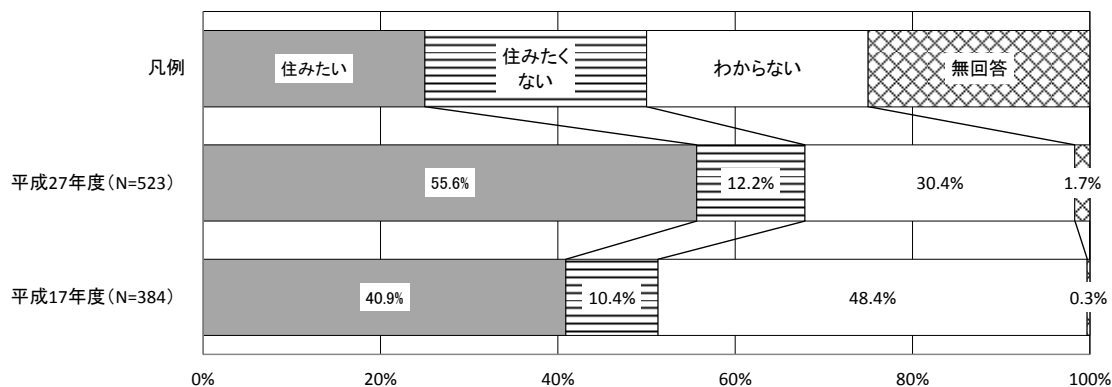


(5) 定住意向

大人になっても十和田市に住みたいか〔単一回答〕

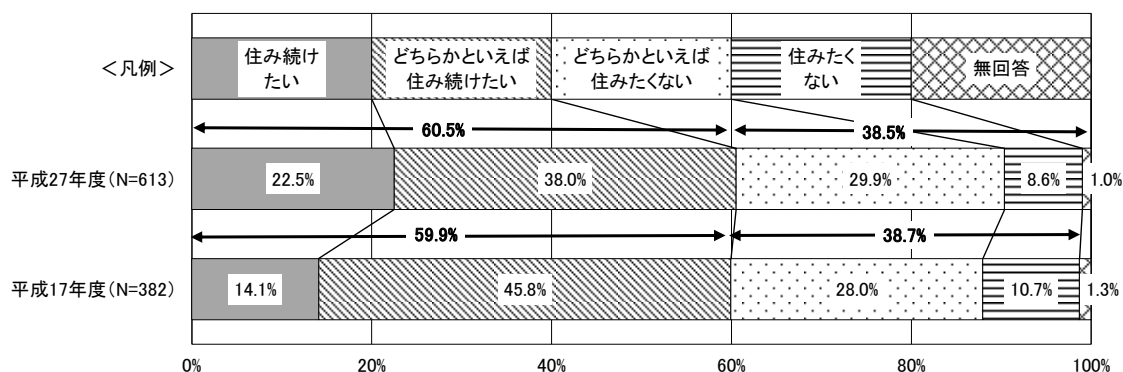
- 小学生では、大人になっても十和田市に「住みたい」が 55.6%となっており、「住みたくない」の 12.2%を大幅に上回っています。
- また、平成 17 年度調査時に比べて「住みたい」が約 15 ポイント増となっています。

小学生



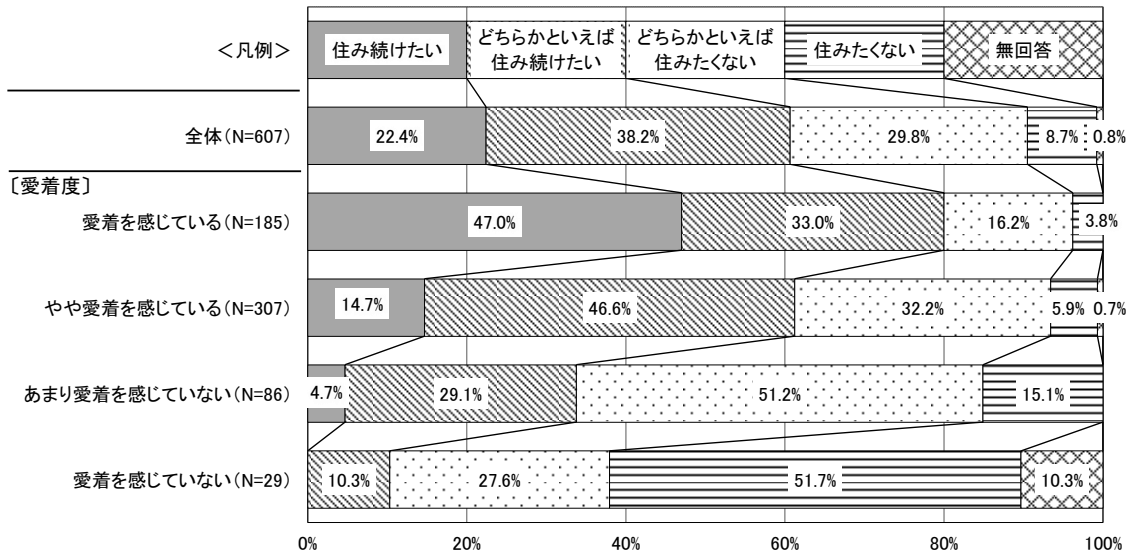
- 中学生では、社会人になってからも十和田市に「どちらかといえば住み続けたい」が 38.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば住みたくない」が 29.9%、「住み続けたい」が 22.5%となっています。
- また、平成 17 年度調査時に比べて「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の合計はほとんど変わりませんが、「住み続けたい」は約 10 ポイント増となっています。

中学生



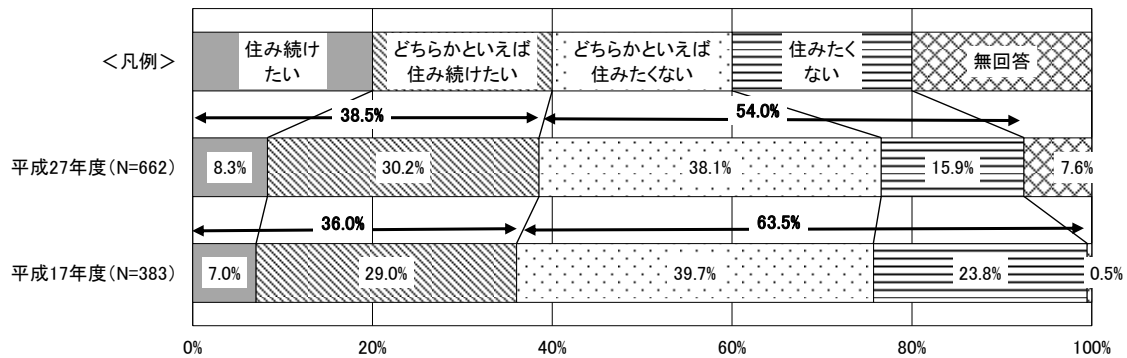
- 中学生の将来の定住意向を、愛着度別にみると、愛着度が高いほど、「住み続けたい」と回答している割合が高くなっていることがわかります。一方で、愛着度が高いほど、「住みたくない」と回答している割合は低くなっており、愛着度と定住意向には関連性があると考えられます。

中学生（平成 27 年 愛着度別）



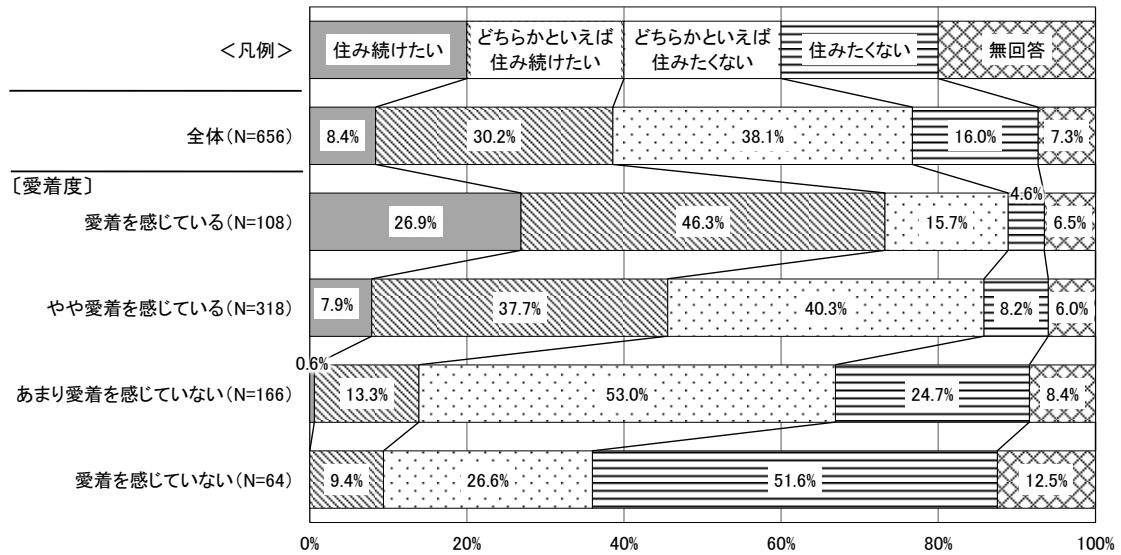
- 高校生では、社会人になってからは十和田市に「どちらかといえば住みたくない」が 38.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が 30.2%、「住みたくない」が 15.9%となっています。
- また、平成 17 年度調査時に比べて「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計が微増し、「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」の合計が約 10 ポイント減となっています。

高校生



- 高校生の将来の定住意向を、愛着度別にみると、愛着度が高いほど「住み続けたい」と回答している割合が高くなっていることがわかります。一方で、愛着度が高いほど、「住みたくない」と回答している割合は低くなっており、中学生と同じく、愛着度と定住意向には関連性があると考えられます。

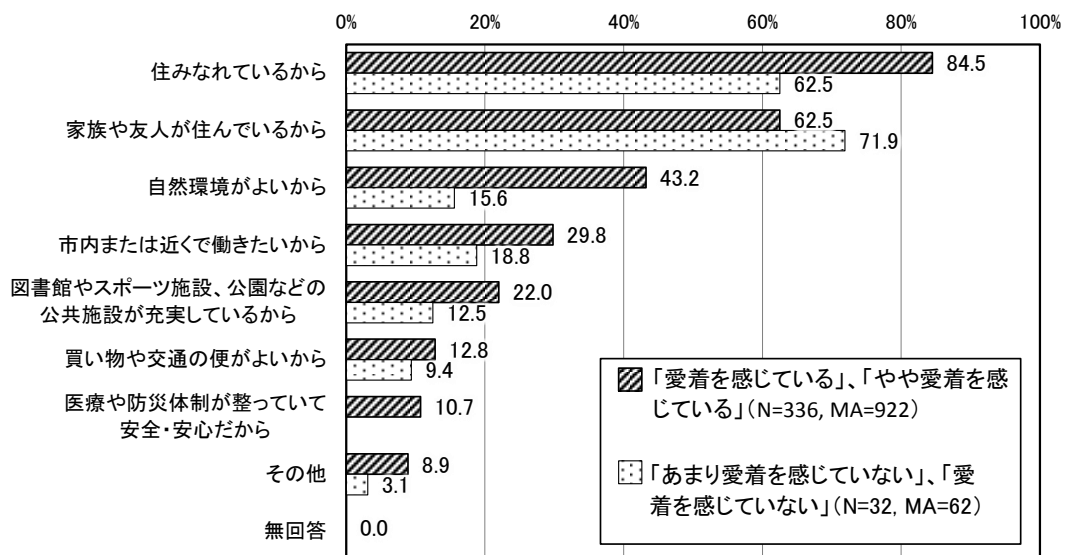
高校生（平成 27 年 愛着度別）



十和田市に住み続けたい理由〔複数回答 あてはまるもの全て〕

- 中学生の十和田市に住み続けたい理由を愛着度別にみると、「愛着を感じている」と「やや愛着を感じている」の合計（以下、「愛着あり」と表記）では、「住みなれているから」が84.5%で最も高く、次いで「家族や友人が住んでいるから」が62.5%、「自然環境がよいから」が43.2%となっています。
- 一方で、「あまり愛着を感じていない」と「愛着を感じていない」の合計（以下、「愛着低・なし」と表記）では、「家族や友人が住んでいるから」が71.9%で最も高く、次いで「住みなれているから」が62.5%となっており、他の理由に大きく差をつけています。

中学生（平成27年 愛着度別）



- その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

【「愛着あり」】

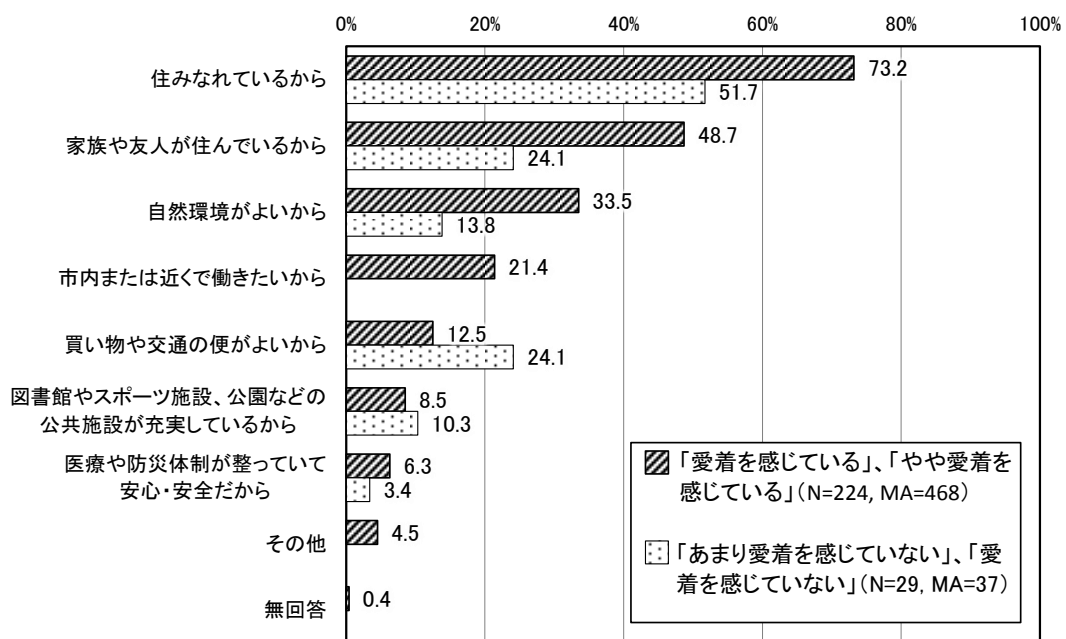
- ・ 農業が盛んだから
- ・ 食べ物が美味しいから
- ・ 空気おいしいから
- ・ あまり騒がしくないから
- ・ 道が都会と違って、単純な作りだから。地価が都会より安いから
- ・ 津波がこないし、地震も少ない。気候が良い
- ・ 犯罪が少ない
- ・ 思い出が詰まっているから。良い事も悪い事も全て十和田の思い出なので、離れたくない
- ・ 十和田の文化・歴史が好きだから
- ・ 自分の生まれた場所だから
- ・ 市民同士の仲が良いから
- ・ 市長が市民の気持ちを分かってくれると信じているから

【「愛着低・なし」】

- ・ 近くに実家があるから

- 高校生の十和田市に住み続けたい理由を愛着度別にみると、「愛着あり」では、「住みなれているから」が 73.2%で最も高く、次いで「家族や友人が住んでいるから」が 48.7%、「自然環境がよいから」が 33.5%となっています。
- 一方で、「愛着低・なし」では、「住みなれているから」が 51.7%で最も高く、次いで「家族や友人が住んでいるから」と「買い物や交通の便がよいから」が 24.1%となっており、愛着度によって住み続けたい理由の上位にあげられるものに違いが見られます。

高校生（平成 27 年 愛着度別）



- その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

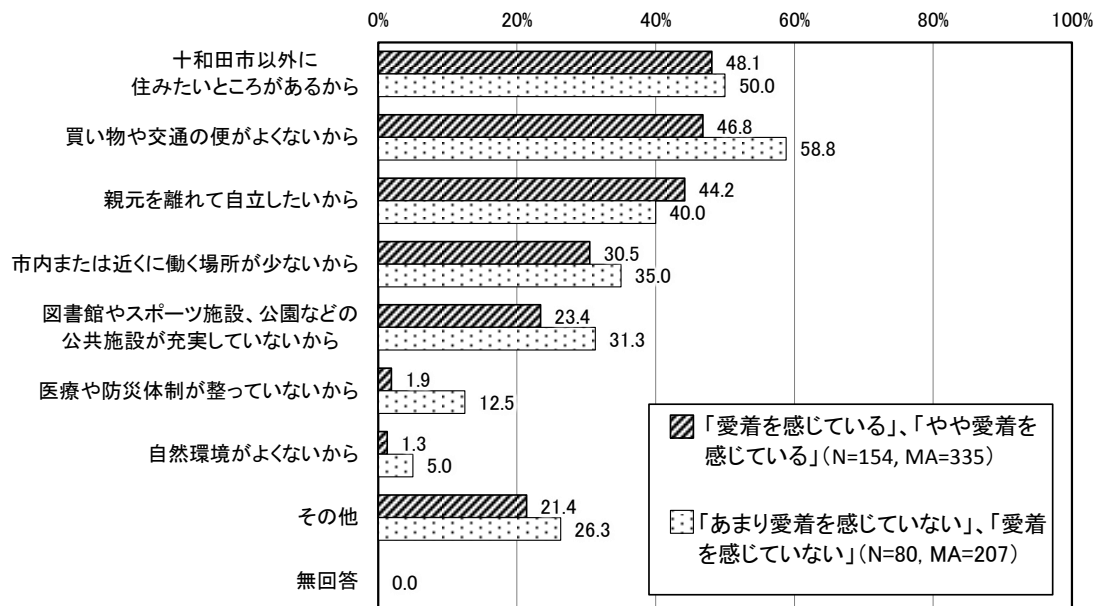
【「愛着あり」】

- ・ 地域に貢献したい
- ・ 住みやすいから
- ・ 地震とかが起きた時に、大きな被害がなさそうだから
- ・ 事件が少ない
- ・ 秋まつりがあるから
- ・ スケートボードを滑る所があるから
- ・ 親にあまり心配をかけたくないから

十和田市に住みたくない理由〔複数回答 あてはまるもの全て〕

- 中学生の十和田市に住みたくない理由を愛着度別にみると、「愛着あり」では、「十和田市以外に住みたいところがあるから」が48.1%で最も高く、次いで「買い物や交通の便がよくないから」が46.8%、「親元を離れて自立したいから」が44.2%、「市内または近くに働く場所が少ないから」が30.5%となっています。
- 一方で、「愛着低・なし」では、「買い物や交通の便がよくないから」が58.8%で最も高く、次いで、「十和田市以外に住みたいところがあるから」が50.0%、「親元を離れて自立したいから」が40.0%となっています。
- 愛着度に関わらず、「十和田市以外に住みたいところがあるから」、「買い物や交通の便がよくないから」、「親元を離れて自立したいから」が上位を占めています。

中学生（平成27年 愛着度別）



- その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

【「愛着あり」】

- ・ 将来希望する仕事を市内や近くでやる事ができないから
- ・ 行きたい学校や取りたい資格を取れる場所がないから
- ・ スポーツをする所が少なすぎる
- ・ 美味しい食べ物がない
- ・ 美術館や図書館が多い
- ・ 歴史的なものを学べる場所が減っているから
- ・ 近くに遊べる場所がないから
- ・ 他の県でも、いろんな経験を試してみたいから
- ・ 将来、海外へ移住して住みたいから

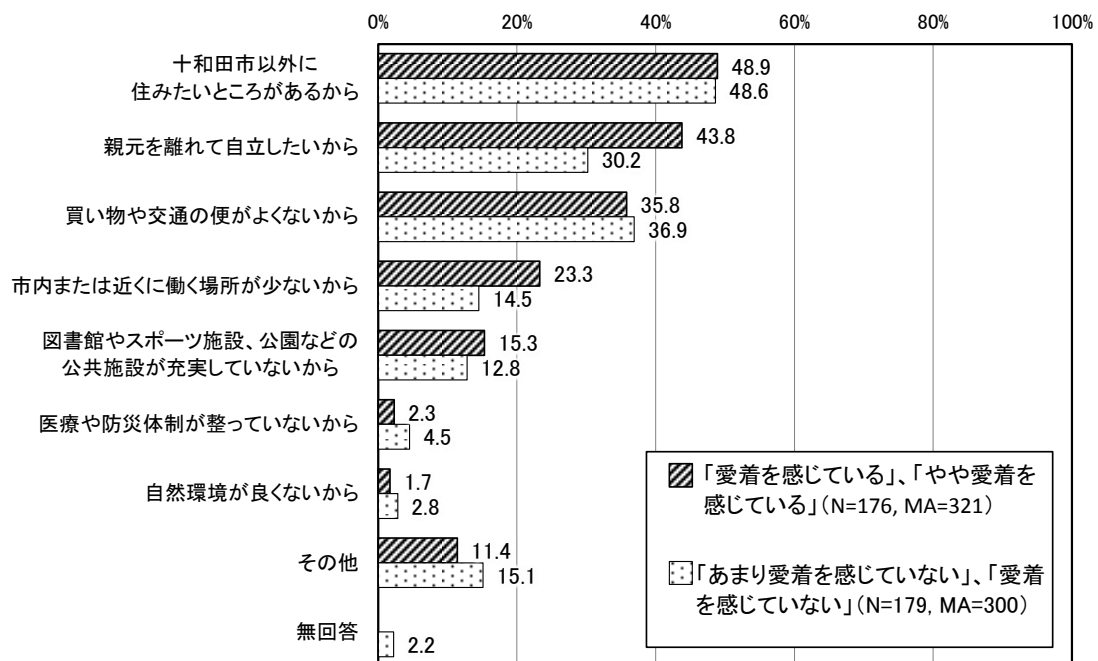
【「愛着低・なし」】

- ・ 職業が十和田じゃできない事だから
- ・ 商業施設が少ないから
- ・ 何もなく、シャッター街が多いから。都会はデパートやゲームセンターが近くにあるから
- ・ インターネットを使える場所が限られているから
- ・ 子供や若い人にはあまり美術館は必要ないし、行かない
- ・ 娯楽がないから
- ・ 都会の方が生活に役に立つから

- 十和田市以外に住みたいところとしては、関東地方、東北地方が比較的多くあげられており、関東地方では東京都、東北地方では仙台市の人気が高くなっています。「東京都か仙台市」という希望が複数みられる点も特徴的です。
- 東北地方で十和田市よりも人口規模の大きい市に住みたいという意見も複数見られます。

- 高校生の十和田市に住みたくない理由を愛着度別にみると、「愛着あり」では、「十和田市以外に住みたいところがあるから」が48.9%で最も高く、次いで「親元を離れて自立したいから」が43.8%、「買い物や交通の便がよくないから」が35.8%、「市内または近くに働く場所が少ないから」が23.3%となっています。
- 一方で、「愛着低・なし」では、「十和田市以外に住みたいところがあるから」が48.6%で最も高く、次いで「買い物や交通の便がよくないから」が36.9%、「親元を離れて自立したいから」が30.2%となっています。
- 愛着度によって順位は変わりますが、住みたくない理由上位3つは同じです。

高校生（平成27年 愛着度別）



- その他の意見としては、次のようなものがあげられています。

【愛着あり】

- ・ 進学先が県外かもしれないから
- ・ 就職先によって変わるが、就職した所に住みたい
- ・ 海外で働きたい
- ・ 都会で働きたいから
- ・ 大きな商業施設がなくて、長い時間遊べる場所がないから
- ・ 子供の数が少なく、子供のふれあいが少ないから
- ・ 人が多く、信号が多く、危険、面倒くさい
- ・ 雪が積もるから
- ・ 娯楽施設が充実していないから
- ・ 青森県や十和田市以外に住んでみたいと思うから
- ・ 自分の生まれた地域にいたい

【愛着低・なし】

- ・ 県外に働きに出たいから
- ・ 自分が進学したい大学がないから
- ・ 都会と比べて寂しい
- ・ 美術品が多すぎて、必要ない。美術品等にお金をかけないで、将来スポーツで活躍できるように競技場を土からタータンに変える等、もっとスポーツの施設を整えてほしい
- ・ 娯楽がないから
- ・ 十和田でなければならぬ魅力を感じていないから

□ 十和田市以外に住みたいところとしては、関東地方、東北地方が回答の多くを占めており、中部地方以南をあげている回答者はわずかです。関東地方、東北地方で人気のある都市は、中学生と同様に東京都、仙台市となっており、「東京都か仙台市」という希望も複数見られます。

□ 青森県内では、八戸市、三沢市等、南部地方の市が多くあげられています。

□ また、自分の地元をあげる回答者も多くなっていますが、これは、回答者全体の約4割が市外に居住していることが一因と考えられます。

〔参考資料〕

(1) 平成 17 年度 小中高生アンケートの概要

対象者（標本調査法による）

小学 5 年生 400 人

中学 2 年生 400 人

高校 2 年生（市内 4 校） 400 人

調査の方法

配票調査法（調査票を配布し、後日回収）

主な調査項目

- ・ 基本的事項（性別、居住地）
- ・ 永住希望
- ・ 愛着度
- ・ 生活環境についての満足度及び重要度
- ・ 将来望むまちづくり

調査期間

平成 17 年 8 月～9 月

回収状況

	小学校	中学校	高等学校	全体
配付数（件）	400	400	400	1,200
有効回答者数（件）	384	382	383	1,149
有効回答率（％）	96.0	95.5	95.8	95.8